

令和6年度 事業報告書

(令和6年4月1日から令和7年3月31日まで)



学校法人 順天堂

順天堂大学 5キャンパス6附属病院群

- ① 本郷・お茶の水キャンパス
大学・大学院・法人本部
医学部
国際教養学部
保健医療学部
大学院研究科
順天堂医院
(医院の名を継承しています)

- ⑥ 練馬病院



- ④ 順天堂越谷病院



- ③ 浦安病院



- ⑤ 順天堂東京江東高齢者医療センター



- ② 静岡病院



- ② さくらキャンパス
スポーツ健康科学部
スポーツ健康科学研究科



- ④ 三島キャンパス
保健看護学部
医療看護学
研究科



- ③ 浦安キャンパス
医療看護学部
医療看護学研究科

- ⑤ 浦安・日の出キャンパス
医療科学部
健康データサイエンス学部
薬学部



<https://www.juntendo.ac.jp/>



順天堂の「順天」は、中国の古典『易経』にある「順天応人」(天の意志に順い、人々の期待に応える)と、孟子の言葉の「順天者存。逆天者亡」(自然の摂理に順うものは存続して栄え、天の理法に逆らうものは亡びる)に由来します。



A 法人章



B 法人章

「意匠登録」：1996 (平成8) 年

A法人章： 仁義礼智信…の“仁”をデザイン化したとされ、明治初期の順天堂医院診察券や薬袋、佐藤尚中の肖像や医専の校章に使用されています。

B法人章： 佐藤の“サ”又はA 法人章を大学の“大”へデザイン化したとされています。＜1957 (昭和32) 年制定＞



平成21年6月に制定された「ロゴマーク」は、本学の式典旗、発行する印刷物、ホームページ、文具類等の物品、本学公認の学生サークルの団旗等に使用されます。



2025年 順天堂創立187周年

開塾：1838年（天保9年）



順天堂の沿革



順天堂は、江戸後期の天保9(1838)年、今から187年前に学祖・佐藤泰然が江戸・日本橋・薬研堀に設立したオランダ医学塾（和田塾）に端を発し、いまに繋がる日本最古の西洋医学塾です。

幕末、攘夷・洋学排斥の動きもあり、江戸より下総国佐倉に移った順天堂には、全国各地より百数十名を超える俊英が参集し、「日新の医学、佐倉の林中より生ず」と今に語り継がれるが如き、西洋医学研究・教育、そして臨床医学実践の場となりました。

順天堂第二代堂主・佐藤尚中は、明治2(1869)年、明治新政府の要請を受け、佐倉より多数の門下生を率いて上京し、宮内省「大典医」(明治天皇の主治医団長)・文部省「大学大博士」第一号を拝命し、大学東校(現 東京大学医学部の前身)の初代校長として近代医学教育確立に尽力し、西洋医学教育最高学府(東京帝国大学医学部)の礎を固めました。順天堂堂主に帰任した佐藤尚中は佐藤進らと順天堂醫事研究会を設立し、順天堂医院と醫事研究会を基盤に医師の育成を発展させました。順天堂に学んだ者は医師開業試験を免除されました。済生学舎、済衆舎、博愛舎を始めとする多くの医学校の設立を助け、その学生及び卒業生(野口英世ら)は順天堂で臨床教育を受けました。これら医学校を母体として、その後日本医科大学、東京医科大学、東京女子医科大学など多くの大学が誕生していきます。

佐藤進は、明治2(1869)年、明治新政府発行の旅券第一号をもってドイツに留学し、明治7(1874)年、アジア人として最初のベルリン大学医学部を卒業し、医学博士になりました。ドイツより帰国した佐藤進は、佐藤尚中と共に医師育成を続け、明治8(1875)年10月に日本初の医学雑誌『順天堂醫事雑誌(現在は欧文誌、Juntendo Medical Journal:JMJとして)』を発刊し、近代医学情報を日本全国に発信しました。第三代堂主となった佐藤進は、順天堂医院長在任中に陸軍本病院長や日清・日露両戦役の陸軍軍医総監など国家枢要の職を兼任して国難に対峙しました。明治18(1885)年、順天堂医院長在任中に、東京大学医学部附属第一医院及び第二医院の初代院長、また大韓医院(現ソウル大学医学部)を設立し、初代院長・医学部長をも兼任するなど、日本そしてアジアにおける西洋医学教育普及のリーダーとなりました。

第四代堂主(初代理事長)・佐藤達次郎は、順天堂醫事研究会を母体に医学専門学校を開設し、順天堂医科大学へと発展させ、昭和26(1951)年、体育学部(現在のスポーツ健康科学部)を東俊郎を初代学部長として併設し順天堂大学と致しました。順天堂の院

長を続けつつ東京医科大学の創立に尽力し、初代学長、次いで理事長として、その発展を支えました。

第五代堂主(理事長)・有山登は、大学・病院の施設設備を拡充・整備させ、昭和34(1959)年、大学院医学研究科・博士課程を開設し、昭和46(1971)年、大学院体育学研究科・修士課程(現在の大学院スポーツ健康科学研究科・博士前期課程)を開設しました。更に、昭和42(1967)年、順天堂第2番目の医学部附属病院として「順天堂大学医学部附属伊豆長岡病院(94床)(現在の静岡病院)」を開院し、順天堂大学の地方への更なる発展を進めました。

第六代堂主(理事長)・東健彦は、昭和59(1984)年、順天堂第3番目の医学部附属病院として「順天堂大学医学部附属浦安病院(250床)」を開院しました。昭和61(1986)年、厳しい運営事情の中、順天堂創立150周年記念事業として、①医学部附属順天堂医院本館(新1号館)の建設、②体育学部新キャンパス移転、③順天堂高等看護専門学校を改組し、医療短期大学を設立し、本郷より浦安市への移転を計画しました。

第七代堂主(理事長)・懸田克躬は、昭和63(1988)年、体育学部を習志野キャンパスからさくらキャンパス(現在の印西市)へ移転し、平成元(1989)年、順天堂医療短期大学を浦安キャンパスに開学しました。更に、財団法人順天堂精神医学研究所附属順天堂越谷病院を順天堂第4番目の医学部附属病院として「順天堂大学医学部附属順天堂越谷病院(221床)」に改組しました。

第八代堂主(理事長)・石井昌三は、平成5(1993)年、体育学部をスポーツ健康科学部へと改組しました。そして順天堂医院本館(1号館)を完成させ、これにより順天堂創立150周年記念事業が完結されました。この間、静岡病院の拡張・増床など、医学部附属病院群としての地域医療機能充実に努めました。

順天堂の看護師養成の歴史も古く、明治29(1896)年、佐藤進は杉本かね[本邦初の看護取締(総婦長)]を登用して看護婦養成所を開設し、歴代堂主・理事長は講習所、看護学院、准看護婦学院、医学部附属高等看護婦学校、高等看護学校、看護専門学校、医療短期大学(3年制)へと組織体制の転換を進めつつ看護教育を発展させてきました。

そして、**第九代堂主(理事長)・小川秀興**は、平成12(2000)年、学長就任を機として、大学運営の抜本的改革を果すべく、全職域横断的“学長室委員会(現大学運営連絡協議会：運連協)”を設立し、“大学改革20のプロジェクト”を掲げ、次々と斬新的改革を提案・説明・実行していきました。平成16(2004)年、理事長就任後、この委員会はプロジェクトをその時代と状況に応じて変えつつ、大学運営連絡協議会と名前を改め、現在も継続しております。その結果として、

- 1.平成12(2000)年、大学院スポーツ健康科学研究科・博士課程が開設されました。
- 2.平成16(2004)年、医療短期大学(3年制)を廃し、順天堂大学第3の学部として4年制の医療看護学部(千葉県浦安市)が開設、拡充されました。

- 3.平成 14 (2002) 年 6 月、東京都江東高齢者医療センターが開院し、平成 16 (2004) 年 4 月より東京都から順天堂に運営移管され、順天堂第 5 番目の医学部附属病院「順天堂東京江東高齢者医療センター」となりました。
- 4.平成 19 (2007) 年、大学院医療看護学研究科・修士課程が開設され、平成 26 (2014) 年には博士後期課程が開設されました。
- 5.平成 22 (2010) 年、第 4 の学部として保健看護学部 (静岡県三島市) が開設されました。
- 6.平成 25 (2013) 年には、海外からの留学生や国内の医学士以外の研究者の為に大学院医学研究科・修士課程が開設されました。
- 7.平成 17 (2005) 年、練馬区における病院誘致に多数の応募医療機関の中から病院運営者として選定され、順天堂第 6 番目の医学部附属病院「練馬病院」が開院されました。
- 8.平成 27 (2015) 年、第 5 の学部として国際教養学部が開設され、国際総合大学・大学院大学としての基盤を固めました。
- 9.平成 31 (2019) 年、第 6 の学部となる保健医療学部理学療法学科・診療放射線学科が開設されました。
- 10.令和 4 (2022) 年、千葉県浦安市日の出地区の校地に「浦安・日の出キャンパス」が開設され、第 7 の学部となる医療科学部臨床検査学科・臨床工学科が開設されました。
- 11.令和 5 (2023) 年、浦安・日の出キャンパスに第 8 の学部として健康データサイエンス学部が開設され、第 4 の大学院研究科として保健医療学部を基礎として大学院保健医療学研究科が開設されました。
- 12.令和 6 (2024) 年、第 9 の学部として薬学部が開設され、第 5 の大学院研究科として国際教養学部を基礎として大学院国際教養学研究科が開設されました。
- 13.令和 7 (2025) 年、第 6 の大学院研究科として健康データサイエンス学部を基礎として健康データサイエンス研究科が開設されました。

順天堂は、附属 6 病院合計で総病床数 3,589 床を有し、日本最大規模の強固なネットワークを形成しています。国民の医療ニーズに幅広く対応する高い専門性を発揮し、総合力に秀でた医育機関として発展するとともに、外国人患者の急増に対応して国際診療部を設置するなど国際レベルでの病診・病病連携を強めております。

本学は「不断前進」の理念のもとに学是「仁」を大切にしながら、出身校、国籍、性別の差別のない“三無主義”を学風として掲げ、9 学部 6 研究科 6 附属病院からなる「健康総合大学・大学院大学」として教育・研究・医療そしてリベラル・アーツを通じて国際レベルでの社会貢献と人材育成を進めております。

2025 年 5 月 15 日 (創立記念日)

学校法人 順 天 堂

理事長 小 川 秀 興

～小川秀興理事長（第9代堂主）旭日重光章 受章～



政府は11月3日、令和6年秋の叙勲受章者を発表し、本法人の小川秀興理事長が旭日重光章を受章しました。11月6日、皇居で執り行われた重光章伝達式では、叙勲受章者を代表して、天皇陛下へ御礼を言上する大役を務められました。

小川秀興理事長は、皮膚科学者・医真菌学者として、稀少難治性疾患の病態と治療の解明に心血を注ぎ、多くの画期的な研究成果を国際的英文雑誌等に報告してきました。教育者としては、昭和56(1981)年4月皮膚科学講座主任教授に就任以降、教育方針として「三無主義」(学閥・国籍・男女の差別無し)を掲げ、多くの後進の指導に尽力しました。

国際貢献活動としては、昭和51(1976)年から、タイ王国バンコクの国立皮膚病研究所において、アジア太平洋地域諸国の皮膚科・性行為感染症・ハンセン病の専門医育成コースを開始し、世界39ヵ国・地域から参集した1,000名を超える専門医の育成に邁進しました。この功績に対して、タイ王国政府より「騎士団の司令官」の称号を受章、公益社団法人日本医師会より最高優功賞(アジアにおける医学教育の向上への功績)を受賞しました。

また昭和59(1984)年に日本政府の支援により中国北京市に設立された中日友好医院の創設に尽力し、設立以降も一貫して交流を深め、順天堂の知見を活かした人材育成の支援に尽くしてきました。現在会長を務める日中医学協会においても昭和61(1986)年創設の日中笹川医学奨学金制度の立案に携わり、同制度により、これまでに2,400名以上の中国人医学研究者が日本で研鑽を積み、中国で指導的立場を担う人材として巣立っています。40年以上にわたる日中間の医学交流の要としての役割を担い、中国の医学・医療分野における指導者育成に多大な貢献を果たしたこれらの功績に対し、中国政府より「2024年度中国政府友誼賞」を受賞しました。

平成8(1996)年4月医学部長及び理事に就任。その後、平成12(2000)年4月から平成20(2008)年3月31日まで学長を務めるとともに、平成16(2004)年4月1日に本法人理事長に就任し、今日に至っています。また、厚生労働省厚生科学審議会疾病対策部会難病対策委員会委員長をはじめとし、政府関係の各種委員を務めるとともに、一般社団法人日本私立医科大学協会会長、公益財団法人医学教育振興財団理事長、公益財団法人日中医学協会理事長等、各団体の長を歴任し、強力なリーダーシップにより、日本国内だけでなくアジア地域も含め、多くの研究者を育て、医療、医学教育の発展に尽力し、日本の医科系大学のリーダーとして他大学を先導した功績が讃えられ、今回の受章となりました。

1. 法人の設置する学校

研究科・学部名称			所在地	沿革
大学院	医学研究科	修士課程	東京都文京区本郷2丁目1番1号	平成24. 11. 大学院医学研究科（修士課程）設置認可。 平成25. 4. 同 開設。
		博士課程		昭和34. 3. 大学院医学研究科（博士課程）設置認可。 昭和34. 4. 同 開設。
	スポーツ健康科学研究科	博士前期課程	千葉県印西市平賀学園台1丁目1番地	昭和46. 3. 大学院体育学研究科（修士課程）設置認可。 昭和46. 4. 同 開設。 平成 9. 4. 大学院スポーツ健康科学研究科博士前期課程に改称。
		博士後期課程		平成11. 12. 大学院スポーツ健康科学研究科博士後期課程設置認可。 平成12. 4. 同 開設。
	医療看護学研究科	博士前期課程	千葉県浦安市高洲2丁目5番1号	平成18. 11. 大学院医療看護学研究科（修士課程）設置認可。 平成19. 4. 同 開設。 平成26. 4. 同 修士課程を博士前期課程に名称変更。
		博士後期課程		平成25. 10. 大学院医療看護学研究科（博士後期課程）設置認可。 平成26. 4. 同 開設。
学部	保健医療学研究科	修士課程	東京都文京区本郷2丁目1番1号	令和 4. 8. 大学院保健医療学研究科（修士課程）設置認可。 令和 5. 4. 同 開設。
	国際教養学研究科	修士課程	東京都文京区本郷2丁目1番1号	令和 5. 9. 大学院国際教養学研究科（修士課程）設置認可。 令和 6. 4. 同 開設。
	医学部 医学科		東京都文京区本郷2丁目1番1号	天保9年（1838年）西洋医学塾開塾。以降、江戸（薬研堀）から佐倉（千葉）、東京下谷練堀町、本郷湯島の順天堂醫院にて多くの西洋医学者を育成。 昭和18. 12. （財）順天堂医学専門学校設立認可。 昭和21. 5. （財）順天堂医科大学設置認可。 昭和26. 2. （学）順天堂医科大学認可。 昭和26. 6. 順天堂大学体育学部Ⅱ類（医学進学コース）開設。 昭和27. 2. 新制順天堂大学医学部設置認可。 昭和27. 4. 順天堂大学医学部開設。
	スポーツ健康科学部 スポーツ健康科学科		千葉県印西市平賀学園台1丁目1番地	昭和26. 6. 体育学部Ⅰ類（体育学専攻、健康教育学専攻）開設。 昭和46. 1. 体育学部（体育学科、健康学科）設置認可。 平成 4. 12. スポーツ健康科学部設置認可。 平成 5. 4. 体育学部をスポーツ健康科学部へ改組。スポーツ科学科、スポーツマネジメント学科、健康学科設置。 令和 2. 4. スポーツ健康科学科設置届出。 令和 3. 4. スポーツ健康科学科開設。※スポーツ科学科、スポーツマネジメント学科、健康学科学学生募集停止
				（看護教育沿革） 明治29. 10. 順天堂医院看護婦養成所開設。 昭和29. 4. 順天堂大学医学部附属順天堂准看護婦学院設置。 昭和36. 3. 同高等看護婦学校開設。 昭和38. 4. 順天堂高等看護学校へ改組。 昭和51. 11. 順天堂看護専門学校へ名称変更。
	医療看護学部 看護学科		千葉県浦安市高洲2丁目5番1号	平成元. 4. 順天堂医療短期大学開設。 平成15. 11. 医療看護学部設置認可。 平成16. 4. 順天堂医療短期大学を順天堂大学医療看護学部へ改組。 平成19. 6. 同短期大学廃止。
	保健看護学部 看護学科		静岡県三島市大宮町3丁目7番33号	平成21. 6. 保健看護学部設置届出。 平成21. 9. 学部設置に伴う収容定員関係学則変更認可。 平成22. 4. 保健看護学部開設。
	国際教養学部 国際教養学科		東京都文京区本郷2丁目1番1号	平成26. 12. 国際教養学部設置認可。 平成27. 4. 同 開設。
	保健医療学部 理学療法学科 診療放射線学科		東京都文京区本郷2丁目1番1号	平成30. 8. 保健医療学部理学療法学科・診療放射線学科設置認可。 平成31. 4. 同 開設。
	医療科学部 臨床検査学科 臨床工学科		千葉県浦安市日の出6丁目8番1号	令和 3. 4. 医療科学部臨床検査学科・臨床工学科設置届出。 令和 3. 6. 学部設置に伴う収容定員関係学則変更認可。 令和 4. 4. 同 開設。
	健康データサイエンス学部 健康データサイエンス学科		千葉県浦安市日の出6丁目8番1号	令和 4. 8. 健康データサイエンス学部設置認可。 令和 5. 4. 同 開設。
	薬学部 薬学科		千葉県浦安市日の出6丁目8番1号	令和 5. 9. 薬学部設置認可。 令和 6. 4. 同 開設。

※複数の校地に設置している場合は、本部機能を有するキャンパスの所在地を記載

2. 研究科・学部一覧

研究科・学部・学科名称		取得学位	研究科長・学部長・学科長
大学院	医学研究科	修士（医科学） 博士（医学）	高 橋 和 久
	スポーツ健康科学研究科	修士（スポーツ健康科学） 博士（ ）	和 氣 秀 文
	医療看護学研究科	修士（看護学） 博士（ ）	平 井 周
	保健医療学研究科	修士（理学療法学） 修士（診療放射線学）	京 極 伸 介
	国際教養学研究科	修士（国際教養学）	加 藤 洋 一
学部	医学部 医学科	学士（医学）	高 橋 和 久
	スポーツ健康科学部 スポーツ健康科学科	学士（スポーツ健康科学）	和 氣 秀 文
	医療看護学部 看護学科	学士（看護学）	平 井 周
	保健看護学部 看護学科	学士（看護学）	小 池 道 明
	国際教養学部 国際教養学科	学士（国際教養学）	ニヨンサバ フランソワ
	保健医療学部	学士（学位名は下記のとおり）	京 極 伸 介
	理学療法学科	学士（理学療法学）	藤 原 俊 之
	診療放射線学科	学士（放射線技術学）	坂 野 康 昌
	医療科学部	学士（学位名は下記のとおり）	長 岡 功
	臨床検査学科	学士（臨床検査学）	三井田 孝
	臨床工学科	学士（臨床工学）	峰 島 三千男
	健康データサイエンス学部 健康データサイエンス学科	学士（健康データサイエンス学）	青 木 茂 樹
	薬学部 薬学科	学士（薬学）	岩 渕 和 久

3. 医学部附属病院

病院名称	開設年月日	病床数	所 在 地
順天堂医院	明治 6. 2. 2	1,051 床	東京都文京区本郷 3 丁目 1 番 3 号
静岡病院	昭和 42. 4. 1	633 床	静岡県伊豆の国市長岡 1129 番地
浦安病院	昭和 59. 5. 15	785 床	千葉県浦安市富岡 2 丁目 1 番 1 号
順天堂越谷病院	平成 元. 4. 1	226 床	埼玉県越谷市袋山 560 番地
順天堂東京江東高齢者医療センター	平成 14. 6. 3	404 床	東京都江東区新砂 3 丁目 3 番 20 号
練馬病院	平成 17. 7. 1	490 床	東京都練馬区高野台 3 丁目 1 番 10 号
合 計		3,589 床	

※病床数は令和 7 年 3 月 31 日現在の稼働数

4. 法人の設置する大学院・大学の入学定員、学生数等

研究科・学部・学科名称			修業 年限	入学 定員	入学 者※1	収容 定員	在籍者※2・3						
							1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	5 年次	6 年次	
大学院	医学研究科	修士課程	2 年	60	91	120	175	92 (60)	83 (60)	－	－	－	－
		博士課程	4 年	180	200	720	762	196 (180)	196 (180)	201 (180)	169 (180)	－	－
	スポーツ健康 科学研究科	博士前期課程	2 年	61	77	122	136	73 (61)	63 (61)	－	－	－	－
		博士後期課程	3 年	10	12	30	39	12 (10)	12 (10)	15 (10)	－	－	－
	医療看護学 研究科	博士前期課程	2 年	29	31	58	64	31 (29)	33 (29)	－	－	－	－
		博士後期課程	3 年	12	14	36	41	10 (12)	12 (12)	19 (12)	－	－	－
	保健医療学 研究科	修士課程	2 年	10	32	20	60	32 (10)	28 (10)	－	－	－	－
	国際教養学 研究科	修士課程	2 年	5	9	5	8	8 (5)	－	－	－	－	－
大学院 計				367	466	1,111	1,285	454 (367)	427 (362)	235 (202)	169 (180)	－	－
学部	医学部 医学科		6 年	140	140	829	831	139 (140)	147 (140)	133 (138)	138 (136)	131 (135)	143 (140)
	スポーツ健康科学部 スポーツ健康科学科		4 年	600	611	2,400	2,426	608 (600)	616 (600)	611 (600)	591 (600)	－	－
	医療看護学部 看護学科		4 年	220	221	860	847	224 (220)	218 (220)	208 (220)	197 (200)	－	－
	保健看護学部 看護学科		4 年	160	165	540	545	164 (160)	132 (130)	130 (130)	119 (120)	－	－
	国際教養学部 国際教養学科		4 年	240	265	960	935	273 (240)	215 (240)	221 (240)	226 (240)	－	－
	保健医療学部		4 年	240	242	960	968	250 (240)	238 (240)	233 (240)	247 (240)	－	－
	理学療法学科		4 年	120	123	480	485	125 (120)	121 (120)	114 (120)	125 (120)	－	－
	診療放射線学科		4 年	120	122	480	483	125 (120)	117 (120)	119 (120)	122 (120)	－	－
	医療科学部		4 年	180	182	540	553	199 (180)	181 (180)	173 (180)	－	－	－
	臨床検査学科		4 年	110	128	330	342	124 (110)	113 (110)	105 (110)	－	－	－
	臨床工学科		4 年	70	74	210	211	75 (70)	68 (70)	68 (70)	－	－	－
	健康データサイエンス学部 健康データサイエンス学科		4 年	100	111	200	210	111 (100)	99 (100)	－	－	－	－
	薬学部 薬学科		6 年	180	186	180	185	185 (180)	－	－	－	－	－
学部 計				2,060	2,123	7,469	7,500	2,153 (2,060)	1,846 (1,850)	1,709 (1,748)	1,518 (1,536)	131 (135)	143 (140)

※1 入学者欄は令和 6 年 4 月に入学した学生数、※2 在籍者欄は令和 7 年 3 月 31 日における学生数、※3 在籍者欄下段は、該当年次入学時の入学定員数

5. 役 員

区 分	氏 名	主 な 役 職
理事長	小 川 秀 興	
理 事	新 井 一	理事長補佐
	代 田 浩 之	学長
	木 南 英 紀	学長特別補佐
	服 部 信 孝	学長補佐
	高 橋 和 久	医学部長、大学院医学研究科長
	和 氣 秀 文	スポーツ健康科学部長、大学院スポーツ健康科学研究科長
	平 井 周	医療看護学部長、大学院医療看護学研究科長
	小 池 道 明	保健看護学部長
	ニヨンサバ フランソワ	国際教養学部長
	京 極 伸 介	保健医療学部長、大学院保健医療学研究科長
	長 岡 功	医療科学部長
	青 木 茂 樹	健康データサイエンス学部長
	岩 渕 和 久	薬学部長
	桑 鶴 良 平	順天堂医院長
	佐 藤 浩 一	静岡病院長
	田 中 裕	浦安病院長
	鈴 木 利 人	順天堂越谷病院長
	宮 内 克 己	順天堂東京江東高齢者医療センター院長
	浦 尾 正 彦	練馬病院長
	宮 野 武	練馬病院名誉院長
	高 森 建 二	大学院医学研究科環境医学研究所長
	佐 藤 信 紘	大学院医学研究科特任教授
	天 野 篤	大学院医学研究科特任教授
	内 藤 久 士	大学院スポーツ健康科学研究科スポーツ健康医科学研究所長
	植 木 純	大学院医療看護学研究科シミュレーション教育研究センター長
	加 藤 洋 一	大学院国際教養学研究科長
	多 田 宏	非常勤
	永 田 良 一	非常勤
監 事	辛 島 睦	非常勤
	濱 本 英 輔	非常勤

6. 評議員

<選任条項順に記載>

浦尾 正彦	田中 裕	岩渕 和久	桑鶴 良平	坂本 一博	山路 健	清水 俊明
青木 和浩	鈴木 大地	吉村 雅文	ニヨンサバ フランソワ	細谷 芳三	小林 忠彦	田中ひとみ
佐藤 潔	長岡 功	高森 建二	新井 一	中澤 真逸	澤木 啓祐	土屋 清子
宮川 政久	加納 實	植木 純	児島 邦明	小川 秀興	代田 浩之	服部 信孝
和氣 秀文	平井 周	小池 道明	加藤 洋一	高橋 和久	佐藤 浩一	多田 宏
佐藤 信紘	木南 英紀	宮野 武	鈴木 利人	宮嶋 雅一	天野 篤	丸木 親
永田 良一	奥村 康	岡田 隆夫	吉田 幸洋	小林 茂人	内藤 久士	稲富 恵子
青木 茂樹	京極 伸介	村田 善則	岡田 綾	宮内 克己	古谷 健一	三橋 直樹
津田 裕士	高崎 芳成	島内 憲夫	櫻井 美鈴			(計 60 名)

7. 教職員数

(1) 教員数

(令和7年3月31日現在)

学長
1

(単位：名)

	教授	先任准教授	准教授	講師	助教	助手	常勤計	非常勤	計
大 学 院	260	12	69	3	49	5	398	336	734
(内訳)									
医学研究科	225	11	66	3	46	4	355	221	576
スポーツ健康科学研究科	20	0	2	0	3	1	26	15	41
医療看護学研究科	14	1	1	0	0	0	16	91	107
保健医療学研究科	0	0	0	0	0	0	0	6	6
国際教養学研究科	1	0	0	0	0	0	1	3	4
学 部	96	147	403	34	437	465	1,582	3,077	4,659
(内訳)									
医 学 部	9	101	317	3	364	458	1,252	2,646	3,898
スポーツ健康科学部	7	20	26	2	16	2	73	93	166
医療看護学部	1	7	15	2	25	2	52	73	125
保健看護学部	14	3	6	7	6	3	39	61	100
国際教養学部	13	7	10	2	4	0	36	117	153
保健医療学部	14	3	10	6	8	0	41	27	68
医 療 科 学 部	13	2	3	5	6	0	29	35	64
健康データサイエンス学部	8	0	5	2	4	0	19	17	36
薬 学 部	17	4	11	5	4	0	41	8	49
法人・総務局	3	0	1	0	0	0	4	2	6
合 計	359	159	473	37	486	470	1,984	3,415	5,399

※上記内、併任教員数

教員数合計(本務・併任合計)

	教授	准教授	講師	助教	計
大学院本務教員 内学部併任教員	189	48	0	26	263
学部本務教員内 大学院併任教員	27	450	14	44	535

	教員数
大学院	1,269
学 部	4,922

(2) 職員数

事務職	技術職	医療職	教務職	その他	計
902	14	5,368	33	63	6,380

教職員合計
11,780

<参考：令和6年度臨床研修医受入数（括弧内は令和6年度新規受入数）>

順天堂医院	静岡病院	浦安病院	練馬病院	計
85 (43)	60 (30)	80 (40)	68 (34)	293 (147)

8. 研究費・補助金

(1) 補助金

① 文部科学省・(独) 日本学術振興会：科学研究費助成事業

研究種目名	区分	採択件数 (件)		直接経費 (千円)		間接経費 (千円)	
新学術領域研究 (研究領域提案型)	新規	1	1	3,000	3,000	900	900
	継続	0		0		0	
基盤研究(S)	新規	2	3	74,300	86,000	22,290	25,800
	継続	1		11,700		3,510	
基盤研究(A)	新規	1	6	14,400	53,100	4,320	15,930
	継続	5		38,700		11,610	
基盤研究(B)	新規	11	67	56,000	233,400	16,800	70,020
	継続	56		177,400		53,220	
基盤研究(C)	新規	133	406	184,000	433,950	55,200	130,185
	継続	273		249,950		74,985	
若手研究	新規	74	228	108,570	264,770	32,571	79,431
	継続	154		156,200		46,860	
挑戦的研究(開拓)	新規	0	1	0	6,000	0	1,800
	継続	1		6,000		1,800	
挑戦的研究(萌芽)	新規	4	15	9,000	27,200	2,700	8,160
	継続	11		18,200		5,460	
研究活動スタート支援	新規	13	25	14,300	26,500	4,290	7,950
	継続	12		12,200		3,660	
国際共同研究強化	新規	4	4	47,900	47,900	14,370	14,370
	継続	—		—		—	
海外連携研究	新規	1	5	1,300	16,100	390	4,830
	継続	4		14,800		4,440	
国際先導	新規	0	1	0	81,200	0	24,360
	継続	1		81,200		24,360	
特別研究員奨励費	新規	5	12	4,800	12,300	630	1,680
	継続	7		7,500		1,050	
研究成果促進費	新規	1	1	500	500	0	0
	継続	—		—		—	
奨励研究	新規	6	6	2,820	2,820	0	0
	継続	—		—		—	
合 計	新規	256	781	520,890	1,294,740	154,461	385,416
	継続	525		773,850		230,955	

② 文部科学省：科学技術人材育成費補助金

事業名	採択件数(件)	決定額(千円)
卓越研究員事業	1	4,000
ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(女性リーダー育成型)	1	30,000
合 計	2	34,000

③ 厚生労働省：厚生労働科学研究費補助金、厚生労働行政推進調査事業費補助金

事業名	採択件数(件)	直接経費(千円)	間接経費(千円)
厚生労働科学特別研究事業	1	21,709	5,009
難治性疾患政策研究事業	1	23,010	6,903
障害者政策総合研究事業	1	9,490	2,810
新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業	1	1,093,847	316,153
エイズ対策政策研究事業	1	11,500	3,450
合 計	5	1,159,556	334,325

④ 国立研究開発法人日本医療研究開発機構

事業名	採択件数(件)	直接経費(千円)	間接経費等(千円)
研究者育成支援研究奨励事業（創薬関連分野）	2	11,400	1,140
官民による若手研究者発掘支援事業	1	16,570	4,970
臨床研究開発推進事業（医療技術実用化総合促進事業）	1	156,950	15,695
合 計	4	184,920	21,805

(2) 委託費

① 文部科学省

事業名	採択件数(件)	直接経費(千円)	間接経費(千円)
先端的スポーツ医・科学研究推進事業	1	44,329	4,431
合 計	1	44,329	4,431

② 国立研究開発法人科学技術振興機構

事業名	採択件数(件)	直接経費(千円)	間接経費(千円)
戦略的創造研究推進事業	2	17,797	5,339
研究成果展開事業 共創の場形成支援（共創の場形成支援プログラム）	1	3,839	1,152
大学発新産業創出基金事業（基金）	1	27,070	8,121
創発的研究支援事業	14	69,146	20,744
ムーンショット型研究開発事業	1	65,639	19,692
合 計	19	183,491	55,048

③ 国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所

事業名	採択件数(件)	直接経費(千円)	間接経費(千円)
希少疾病用再生医療品等開発支援事業	1	12,699	1,904
戦略的イノベーション創造プログラム包摂的コミュニティプラットフォームの構築	1	94,783	14,217
合 計	2	107,482	16,121

④ 国立研究開発法人日本医療研究開発機構

事業名	採択件数(件)	直接経費(千円)	間接経費等(千円)
次世代治療・診断実現のための創薬基盤技術開発事業	1	24,000	7,200
創薬基盤推進研究事業	1	20,000	6,000
次世代がん医療加速化研究事業	2	38,000	11,400
再生医療等実用化研究事業	4	249,938	74,981
再生・細胞医療・遺伝子治療実現加速化プログラム	3	250,000	75,000
革新的がん医療実用化研究事業	2	30,000	9,000
認知症研究開発事業	1	20,000	6,000
障害者対策総合研究開発事業（精神障害分野）	2	35,000	10,500
障害者対策総合研究開発事業（身体・知的・感覚器障害分野）	1	7,000	2,100
難治性疾患実用化研究事業	5	150,000	45,000
循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策実用化研究事業	1	15,000	4,500
移植医療技術開発研究事業	1	3,000	900
新興・再興感染症に対する革新的医薬品等開発推進研究事業	1	32,000	9,600
肝炎等克服実用化研究事業 肝炎等克服緊急対策研究事業	1	20,500	6,150
革新的先端研究開発支援事業	3	91,783	27,535
医療機器等における先進的研究開発・開発体制強化事業	1	5,000	1,500
医療分野国際科学技術共同研究開発推進事業	2	29,972	8,992
医薬品等規制調和・評価研究事業	1	9,150	2,745
予防・健康づくりの社会実装に向けた研究開発基盤整備事業	1	23,000	6,900
ゲノム医療実現バイオバンク利活用プログラム	2	26,600	7,980
新興・再興感染症研究基盤創生事業（海外拠点活用研究領域）	1	50,000	15,000
脳神経科学統合プログラム	6	285,065	85,519
橋渡し研究プログラム	1	49,100	14,730
合 計	44	1,464,108	439,232

⑤ 独立行政法人環境再生保全機構

事業名	採択件数(件)	直接経費(千円)	間接経費(千円)
環境保健調査研究	1	2,100	210
合 計	1	2,100	210

⑥ 独立行政法人国際協力機構

事業名	採択件数(件)	直接経費(千円)	間接経費(千円)
地球規模課題対応国際科学技術協力（SATREPS） 第2期（2024年7月1日～2025年6月30日）	1	35,720	0
合 計	1	35,720	0

9. 寄付講座・共同研究講座・産学協同研究講座

(1) 寄付講座

講座名	寄付者	設置期間	責任者等
地域総合診療研究講座 (越谷市)	埼玉県越谷市	H23. 5. 1 ～R 8. 3. 31	医学研究科 研究科長 高橋 和久
運動障害疾患病態研究・ 治療講座	日本メドトロニック株式会社 ボストン・サイエンティフィックジャパン株式会社 (H27. 4. 1～) 帝人ファーマ株式会社 (共同研究) (R3. 4. 1～) アボットジャパン合同会社 (R6. 4. 1～) 株式会社 APEX (R6. 4. 1～)	H24. 4. 1 ～R 9. 3. 31	神経学 教授 服部 信孝
脳神経血管内治療学講座	テルモ株式会社 日本ストライカー株式会社 株式会社カネカメディックス 日本メドトロニック株式会社 (H30. 8. 1～)	H24. 8. 1 ～R 6. 7. 31	脳神経外科学 教授 近藤 聡英
遺伝子疾患先端情報学講座	大塚製薬株式会社 株式会社ファンケル (R5. 4. 1～) 第一工業製薬株式会社 (R5. 4. 1～) 株式会社食文化 (R2. 4. 1～) ロート製薬株式会社 (R2. 4. 1～) 第一生命保険株式会社 (R5. 4. 1～)	H26. 4. 1 ～R 8. 3. 31	泌尿器外科学 教授 堀江 重郎
乳酸菌生体機能研究講座	明治ホールディングス株式会社	H27. 4. 1 ～R 9. 3. 31	免疫学 特任教授 奥村 康
先進血液病態学講座	ネクセラファーマジャパン株式会社	R 3. 3. 1 ～R 9. 2. 28	血液学 主任教授 安藤 美樹
脳疾患連携分野研究講座	イドルシアファーマシューティカルズジャパン株式会社	R 3. 4. 1 ～R 8. 3. 31	脳神経外科学 教授 近藤 聡英
骨関節疾患地域医療・研 究講座	茨城県 (～R7. 3. 31) 神栖市	R 4. 4. 1 ～R10. 3. 31	整形外科・運動器医学 教授 石島 旨章
ホスピタリスト研究実践 講座	公益財団法人星総合病院	R 4. 4. 1 ～R10. 3. 31	総合診療科学 教授 内藤 俊夫
機能修復治療学講座	エム・エフコンサルタント株式会社	R 5. 4. 1 ～R 8. 3. 31	リハビリテーション医学研究室 教授 藤原 俊之
消化管疾患病態研究・治 療学講座	株式会社ヤクルト本社	R 6. 4. 1 ～R10. 3. 31	消化器内科学 教授 永原 章仁
中谷生体空間オミクス医 療解析拠点	公益財団法人中谷財団	R 6. 4. 1 ～R11. 3. 31	生化学・生体システム医科学 教授 洲崎 悦生
創造長寿医学	株式会社アニヴェルセルHOLDINGS	R 7. 1. 1 ～R 9. 12. 31	泌尿器外科学 教授 堀江 重郎

(2) 共同研究講座

講座名	共同研究者	設置期間	責任者等
オートファジー調節化合 物探索研究講座	住友ファーマ株式会社	H29. 4. 1 ～R 8. 3. 31	神経学 教授 服部 信孝
認知症診断・予防・治療学 講座	エーザイ株式会社 日本メジフィジックス株式会社	H30. 1. 1 ～R 8. 12. 31	神経学 教授 服部 信孝

講座名	共同研究者	設置期間	責任者等
データサイエンス推進講座	株式会社 4 DIN	H30. 12. 1 ～R 9. 11. 30	放射線診断学 教 授 桑鶴 良平
オルガノイド開発研究講座	エーザイ株式会社	H31. 4. 1 ～R 7. 3. 31	神経学 教 授 服部 信孝
循環器遠隔管理学講座	パラマウントベッド株式会社	R 1. 5. 1 ～R 8. 4. 30	循環器内科学 教 授 南野 徹
ICT 制御に基づく在宅医療開発講座	株式会社サンウェルズ	R 1. 10. 1 ～R 7. 9. 30	神経学 教 授 服部 信孝
先端予防医学・健康情報学講座	株式会社クレディセゾン	R 2. 1. 1 ～R 8. 3. 31	総合診療科学 教 授 内藤 俊夫
パーキンソン病治療薬開発講座	大原薬品工業株式会社 株式会社PARKINSON Laboratories	R 2. 4. 1 ～R 8. 3. 31	神経学 教 授 服部 信孝
デジタル医療講座	ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社 ビジョンケアカンパニー	R 2. 5. 1 ～R 6. 4. 30	AIインキュベーションファーム センター長 服部 信孝
気分障害分子病態学講座	住友ファーマ株式会社	R 2. 10. 1 ～R 8. 9. 30	精神医学 教 授 加藤 忠史
アフェレシス治療技術と生命科学講座	旭化成メディカル株式会社	R 2. 10. 1 ～R 8. 9. 30	膠原病・リウマチ内科学 教 授 山路 健
マルチスケール脳構造イメージング講座	株式会社ニコンソリューションズ	R 2. 11. 1 ～R 7. 10. 31	脳回路形態学 教 授 日置 寛之
パーキンソン病臨床データ解析研究講座	小野薬品工業株式会社	R 3. 1. 1 ～R 7. 12. 31	神経学 教 授 服部 信孝
免疫病・がん先端治療学講座	ワイズ・エー・シー株式会社	R 3. 4. 1 ～R 11. 3. 31	アトピー疾患研究センター 特任教授 奥村 康
先進老化制御学講座	株式会社ブルボン	R 3. 4. 1 ～R 9. 3. 31	循環器内科学 教 授 南野 徹
シヌクレイノパチー創薬探索研究講座	協和キリン株式会社	R 3. 4. 1 ～R 7. 3. 31	神経学 教 授 服部 信孝
運動器疾患病態学講座	サントリーウエルネス株式会社 塩野義製薬株式会社 (R6. 4～) 日本ストライカー株式会社 株式会社日本エム・ディ・エム 久光製薬株式会社 オリンパステルモバイオマテリアル株式会社 エノヴィスジャパン株式会社	R 3. 4. 1 ～R 9. 3. 31	整形外科・運動器医学 教 授 石島 旨章
Pandemic Ready 共同研究講座	清水建設株式会社	R 3. 5. 1 ～R 6. 4. 30	感染制御科学 教 授 堀 賢
救急 AI 色画像情報標準化講座	TOPPAN デジタル株式会社	R 3. 6. 1 ～R 6. 5. 31	救急・災害医学 (浦安病院) 教 授 田中 裕
低侵襲テロメスキャン次世代がん診断学講座	オンコリスバイオフファーマ株式会社	R 3. 6. 1 ～R 6. 5. 31	呼吸器内科学 教 授 高橋 和久
デジタル指標運動機能研究講座	田辺三菱製薬株式会社	R 3. 8. 1 ～R 6. 7. 31	神経学 教 授 服部 信孝

講座名	共同研究者	設置期間	責任者等
ダイレクトリプログラミング再生医療学講座	アステラス製薬株式会社	R 3. 10. 1 ～R 6. 9. 30	難治性疾患診断・治療学 教 授 岡崎 康司
MALDI-TOFMS 実用化研究講座	株式会社島津製作所	R 4. 1. 1 ～R 6. 12. 31	臨床病理検査医学 教 授 田部 陽子
次世代病院 IoT ネットワーク共同研究講座	アライドテレシスホールディングス株式会社	R 4. 3. 1 ～R 8. 2. 28	神経学 教 授 服部 信孝
細菌叢再生学講座	メタジェンセラピューティクス株式会社	R 4. 4. 1 ～R 7. 3. 31	消化器内科学 教 授 永原 章仁
メディカル・メタバース共同研究講座	日本アイ・ビー・エム株式会社	R 4. 4. 1 ～R 7. 3. 31	神経学 教 授 服部 信孝
唾液 1ml を用いた認知症バイオマーカー開発講座	(非公開)	R 4. 6. 1 ～R 6. 5. 31	難治性疾患診断・治療学 教 授 赤澤 智宏
生殖技術フロンティア講座	株式会社新日本科学	R 4. 7. 1 ～R 7. 6. 30	産婦人科学 教 授 板倉 敦夫
食と生殖機能先端研究講座	株式会社パートナーズ	R 4. 7. 1 ～R 7. 6. 30	産婦人科学 教 授 板倉 敦夫
遠隔医療・モバイルヘルス研究開発講座	株式会社関電工	R 5. 3. 1 ～R 8. 2. 28	AIインキュベーションファーム センター長 服部 信孝
腸内フローラ研究講座	森永乳業株式会社	R 5. 4. 1 ～R 8. 3. 31	特任教授 佐藤 信紘
スポーツ施設・環境研究講座	株式会社大林組	R 5. 4. 1 ～R 8. 3. 31	スポーツ健康科学研究科 研究科長 和氣 秀文
免疫・身体機能と睡眠の科学講座	エヌ・ティ・ティ都市開発株式会社	R 5. 5. 1 ～R 8. 4. 30	膠原病・リウマチ内科学 教 授 山路 健
生物機能成分研究講座	株式会社医道メディカル	R 5. 7. 1 ～R 6. 6. 30	医学研究科 教 授 小林 弘幸
パーソナル・アダプティブ・スマートホスピタル共同研究講座	鹿島建設株式会社	R 5. 7. 1 ～R 8. 6. 30	神経学 教 授 服部 信孝
運動器再生医学研究講座	株式会社 Gaudi Clinical NORM 株式会社 (～R6. 10. 31) 株式会社ベリタス	R 5. 11. 1 ～R 8. 10. 31	整形外科・運動器医学 教 授 石島 旨章
再生医療応用低侵襲外科科学講座	医療法人社団ルネ	R 6. 4. 1 ～R 9. 3. 31	上部消化管外科 教 授 福永 哲
腸管機能研究講座	株式会社 JFR	R 6. 4. 1 ～R 9. 3. 31	救急・災害医学 教 授 近藤 豊
PD 長期観察共同研究講座	株式会社サンウェルズ	R 6. 4. 1 ～R 9. 3. 31	神経学 教 授 服部 信孝
分子細胞治療研究講座	株式会社ジェイホールディングス	R 6. 4. 1 ～R 9. 3. 31	緩和医療学 教 授 水嶋 章郎
国際診療推進研究講座	株式会社シーユーシー	R 6. 4. 1 ～R 7. 3. 31	総合診療科学 教 授 内藤 俊夫

講座名	共同研究者	設置期間	責任者等
最先端形態イメージング学講座	日本電子株式会社	R 6. 4. 1 ～R 9. 3. 31	医学研究科 医学研究科長 高橋 和久
経カテーテル弁膜症治療デバイス共同研究講座	株式会社マイトラペックス アイング株式会社	R 6. 5. 1 ～R 9. 4. 30	心臓血管外科学 教 授 田端 実
皮膚抗加齢再生医学講座	株式会社エテルナム	R 6. 5. 1 ～R 9. 4. 30	環境医学研究所 特任教授 高森 建二
医療デジタルレジリエンス研究講座	富士通 Japan 株式会社	R 6. 6. 1 ～R 9. 5. 31	救急・災害医学 教 授 岡本 健
順天堂何氏先端眼科技術研究室	He University	R 6.10. 1 ～R11. 9. 30	眼科学 教 授 中尾新太郎
アフェレシス再生の科学講座	株式会社カネカ	R 6.10. 1 ～R 9. 9. 30	膠原病・リウマチ内科学 教 授 山路 健
マイクロバイオームを用いた新規診断法開発	Meiji Seika ファルマ株式会社	R 6.10. 1 ～R 9. 9. 30	難治性疾患診断・治療学 教 授 赤澤 智宏
AI を活用した医師の働き方改革実現講座	アビームコンサルティング株式会社	R 6.11. 1 ～R 9.10. 31	神経学 教 授 服部 信孝
臨床微生物分析法開発研究講座	株式会社島津製作所	R 7. 1. 1 ～R 9.12. 31	臨床病態検査医学 教 授 田部 陽子

(3) 産学協同研究講座

講座名	産学協同研究者	参画形態	設置期間	責任者等
バイオリソースバンク活用研究支援講座	アボットジャパン合同会社 日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社 三井不動産株式会社	共同研究 寄付 寄付	R 3. 10. 1 ～R 6. 9. 30	呼吸器内科学 教 授 高橋 和久
デジタルセラピューティクス講座	株式会社ライフクエスト トライバル株式会社 池野 隆光 有川 清康 株式会社シーエイチアイ New Life Medicine Technology Company Limited ザ・クレンズ合同会社	共同 共同 寄付 寄付 寄付 共同 寄付	R 3.10. 1 ～R 6. 9. 30	泌尿器外科学 教 授 堀江 重郎
パーキンソン病病態解明研究講座	大塚製薬株式会社 山岸広太郎 セブラホールディングス株式会社	寄付 寄付 共同研究	R4. 4. 1 ～R 7. 3. 31	神経学 教 授 服部 信孝
認知症治療学講座	PDR ファーマ株式会社 公益財団法人小笠原敏昌記念財団 興和株式會社 株式会社アライブメディケア 医療法人社団悠輝会 (1 者非公開)	共同研究 研究助成 共同研究 共同研究 寄付 寄付	R6. 3. 1 ～R 9. 2. 28	神経学 教 授 服部 信孝
心血管睡眠呼吸医学講座	株式会社フィリップス・ジャパン フクダ電子株式会社 レスメド株式会社	寄付 共同 寄付	R 6. 4. 1 ～R 9. 3. 31	循環器内科学 教 授 南野 徹

10. 授業料等学生が納付する金額

(単位：円)

大学院・学部			入学金※1	授業料	施設設備費	実験実習費	教育充実費	初年度合計
大学院	医学研究科	博士課程	200,000	425,000	150,000	－	－	775,000
		修士課程	200,000	425,000※2	150,000	－	－	775,000
	スポーツ健康科学研究科		200,000	575,000	50,000	－	－	825,000
	医療看護学研究科		200,000	575,000	50,000	－	－	825,000
	保健医療学研究科		200,000	575,000	50,000	－	－	825,000
	国際教養学研究科		200,000	575,000	50,000	－	－	825,000
学部	医学部	1 年次	2,000,000	700,000	200,000	－	－	2,900,000
		2 年次以降	－	2,000,000	860,000	－	720,000	3,580,000
	スポーツ健康科学部		200,000	700,000	350,000	－	200,000	1,450,000
	医療看護学部		300,000	900,000	300,000	350,000※3	－	1,850,000
	保健看護学部		300,000	900,000	300,000	140,000※4	－	1,640,000
	国際教養学部		300,000	1,000,000	－	－	250,000	1,550,000
	保健医療学部		300,000	1,000,000	300,000	150,000※5	－	1,750,000
	医療科学部		300,000	1,000,000	300,000	150,000※5	－	1,750,000
	健康データサイエンス学部		200,000	1,000,000	300,000	－	100,000	1,600,000
	薬学部		300,000	1,400,000	300,000	300,000	－	2,300,000

※1 入学時のみ

※2 データサイエンス学位プログラムは 1,050,000 円

※3 4 年次に助産学に関する実習を受講する場合には、実習費として別途 350,000 円を加算

※4 2 年次以降は 420,000 円、

※5 2 年次以降は 480,000 円

11. 学位記授与数

※学位記授与数にて甲は課程修了者、乙は学位論文提出者

大学院医学研究科

(単位:名)

区 分	R03年度	R04年度	R05年度	R06年度	備考《累計》
当該年度修了者の入学時入学定員 (博士)	140	160	180	180	
〃 入学者数 (〃)	178	179	162	177	
博士 (医学) 甲 学位記授与数	158	155	146	167	《3,045》
博士 (医学) 乙 学位記授与数	28	20	14	16	《2,564》
当該年度修了者の入学時入学定員 (修士)	40	60	60	60	
〃 入学者数 (〃)	64	77	98	89	
修士 (医科学) 学位記授与数	61	78	94	81	《520》

大学院スポーツ健康科学研究科

(単位:名)

区 分	R03年度	R04年度	R05年度	R06年度	備考《累計》
当該年度修了者の入学時入学定員 (博士)	10	10	10	10	
〃 入学者数 (〃)	21	18	14	11	
博士 (スポーツ健康科学) 甲 学位記授与数	14	14	11	8	《134》
博士 (スポーツ健康科学) 乙 学位記授与数	1	0	2	1	《28》
当該年度修了者の入学時入学定員 (修士)	61	61	61	61	
〃 入学者数 (〃)	62	63	67	62	
修士 (スポーツ健康科学) 学位記授与数	62	60	66	62	《1,450》

大学院医療看護学研究科

(単位:名)

区 分	R03年度	R04年度	R05年度	R06年度	備考《累計》
当該年度修了者の入学時入学定員 (博士)	10	10	10	12	
〃 入学者数 (〃)	11	10	10	8	
博士 (看護学) 甲 学位記授与数	11	7	6	6	《62》
当該年度修了者の入学時入学定員 (修士)	25	25	29	29	
〃 入学者数 (〃)	24	27	33	33	
修士 (看護学) 学位記授与数	21	29	29	32	《339》

大学院保健医療学研究科 理学療法学専攻

(単位:名)

区 分	R03年度	R04年度	R05年度	R06年度	備考《累計》
当該年度修了者の入学時入学定員 (修士)	—	—	—	5	
〃 入学者数 (〃)	—	—	—	19	
修士 (看護学) 学位記授与数	—	—	—	17	《17》

大学院保健医療学研究科 診療放射線学専攻

(単位:名)

区 分	R03年度	R04年度	R05年度	R06年度	備考《累計》
当該年度修了者の入学時入学定員 (修士)	—	—	—	5	
〃 入学者数 (〃)	—	—	—	9	
修士 (看護学) 学位記授与数	—	—	—	9	《9》

12. 学部卒業生数

(単位：名、括弧内()は女子学生数)

学部・学科名称	取得学位(学士)	R03年度	R04年度	R05年度	R06年度	備考《累計》
医学部 医学科	医学	134 (41)	135 (43)	137 (44)	139 (65)	医専卒 《319》 医科大卒 《89》 学部卒 《5,924》 累計 《6,332》
スポーツ健康科学部		401 (158)	399 (153)	415 (163)	585 (190)	体育学部卒 《5,207》 スポーツ健康科学部卒 《9,792》 累計 《14,999》
スポーツ健康科学科	スポーツ健康科学	—	—	—	585 (190)	
スポーツ科学科	スポーツ科学	243 (89)	243 (85)	252 (80)	—	
スポーツマネジメント学科	スポーツマネジメント学	79 (30)	77 (27)	81 (30)	—	
健康学科	健康学	79 (39)	79 (41)	82 (53)	—	
医療看護学部 看護学科	看護学	196 (192)	194 (192)	201 (195)	195 (188)	講習所 《1,182》 看護学院 《29》 准看護婦学院 《132》 高等看護学校 《775》 看護専門学校 《1,194》 医療短期大学 《1,476》 医療看護学部 《3,375》 累計 《8,163》
保健看護学部 看護学科	看護学	118 (113)	124 (118)	121 (112)	119 (111)	累計 《1,436》
国際教養学部 国際教養学科	国際教養学	111 (61)	221 (150)	211 (128)	216 (127)	累計 《1,095》
保健医療学部		—	231 (128)	221 (127)	231 (127)	累計 《683》
理学療法学科	理学療法学	—	116 (68)	111 (63)	122 (74)	累計 《349》
診療放射線学科	放射線技術学	—	115 (60)	110 (64)	109 (63)	累計 《334》

13. 卒業後の進路状況

【大学院】

研究科・課程		進路	人数	修了者数
医学研究科	博士課程	大学・研究機関	113 名	167 名
		医療機関	34 名	
		民間企業	7 名	
		その他	13 名	
	修士課程	大学・研究機関	15 名	81 名
		医療機関	4 名	
		民間企業	36 名	
		進学	12 名	
		その他	14 名	
スポーツ健康科学研究科	博士後期課程	教員・研究機関	8 名	11 名
		就職（民間企業・公務員等）	2 名	
		その他	1 名	
	博士前期課程	教員・研究機関	18 名	62 名
		就職（民間企業・公務員等）	34 名	
		進学	5 名	
		その他	5 名	
医療看護学研究科	博士後期課程	大学病院等医療機関・保健医療機関	1 名	6 名
		教員・研究機関	5 名	
		その他	0 名	
	博士前期課程	大学病院等医療機関・保健医療機関	23 名	32 名
		教員・研究機関	5 名	
		進学	1 名	
		その他	3 名	
保健医療学研究科 理学療法学専攻	修士課程	大学病院等医療機関・保健医療機関	15 名	17 名
		教員・研究機関	0 名	
		進学	2 名	
		その他	0 名	
診療放射線学専攻	修士課程	大学病院等医療機関・保健医療機関	8 名	9 名
		教員・研究機関	0 名	
		進学	1 名	
		その他	0 名	

※修了者には博士課程単位取得満期退学者を含む

【学部】

学部・学科	進路	人数	卒業者数
医学部	初期臨床研修医（本学医学部附属病院）	96 名	139 名
	〃（他大学医学部附属病院）	5 名	
	〃（大学病院以外の臨床研修指定病院）	35 名	
	その他	3 名	
スポーツ健康科学部	教員・研究機関	109 名	585 名
	就職（民間企業・公務員等）	393 名	
	進学	63 名	
	その他	20 名	
医療看護学部	本学医学部附属病院	179 名	195 名
	本学以外の医療機関	9 名	
	進学	6 名	
	その他	1 名	
保健看護学部	本学医学部附属病院	83 名	119 名
	本学以外の医療機関	29 名	
	進学	4 名	
	その他	3 名	
国際教養学部	教員・研究機関	0 名	216 名
	就職（民間企業・公務員等）	176 名	
	進学	16 名	
	その他	24 名	
保健医療学部 理学療法学科	本学医学部附属病院	20 名	122 名
	本学以外の医療機関	84 名	
	就職（民間企業）	3 名	
	進学	14 名	
	その他	1 名	
診療放射線学科	本学医学部附属病院	15 名	109 名
	本学以外の医療機関	65 名	
	就職（民間企業）	4 名	
	進学	14 名	
	その他	11 名	

14. 教育研究活動の主な概要

【法人・大学】

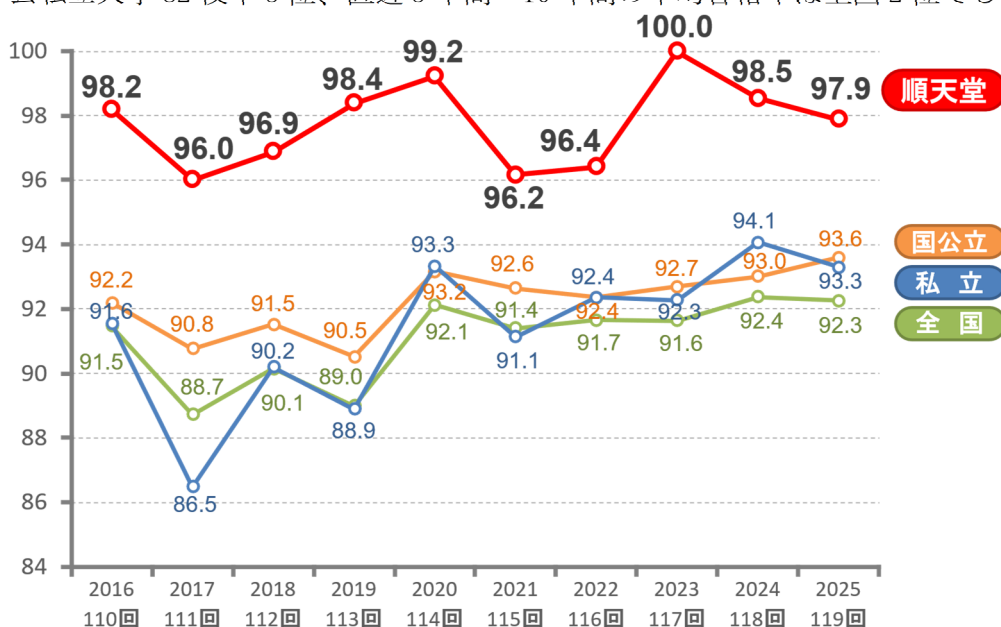
教育・学生支援機構の設置

学部横断的な教育プログラムである「数理・データサイエンス・AI 教育」、「多職種連携教育」及び「全学共通教育」と全学的な教育・学生支援部門である「アドミッションセンター」、「就職支援センター」及び「教職課程センター」を統合・連携して全学的に教育力の向上や学生支援の充実を図るために、令和 6 年 7 月 1 日に教育・学生支援機構を設置しました。

【大学院医学研究科・医学部】

医師国家試験合格率推移

今年度の第 119 回医師国家試験では 142 名（新卒者 139 名、既卒者 3 名）が受験をして 139 名（新卒者 136 名、既卒者 3 名）が合格し、合格率は 97.9%となりました。合格率は全国国公立大学 82 校中 5 位、直近 5 年間・10 年間の平均合格率は全国 2 位でした。



腸内細菌療法リサーチセンター設置

令和 7 年 1 月より大学院医学研究科に腸内細菌療法リサーチセンターを設置しました。本学では共同研究講座「細菌叢再生医学講座」において、腸内細菌療法の利活用について部門横断型の取組を行っており、またパーキンソン病に対する腸内細菌叢移植療法の共同研究も開始する等、本学のブランド力向上、教育力強化、産学連携推進が期待できることから、日本最大のマイクロバイオーーム拠点として学術的基礎研究の推進や臨床研究及び臨床応用への展開等を図っていきます。

ニューロングリアクロストークセンター設置

令和 7 年 1 月より大学院医学研究科にニューロングリアクロストークセンターを設置しました。文部科学省「地域中核・特色ある研究大学の連携による産学官連携・共同研究の施設整備事業」の選定を受け、連携機関の山梨大学と神経細胞・グリア細胞に係る基礎・臨床研究に加え、予防医学の観点から宇宙医学研究を取り入れた拠点とし、臨床応用、産学連携の活性化を視野に入れ整備していきます。

オルガノイドセンター設置

令和7年2月より大学院医学研究科にオルガノイドセンターを設置しました。この分野は発生物学の基礎科学から再生医療の応用まで幅広い価値を持ち、産業界からも高い関心を集めていることから、オルガノイド研究の国内拠点として基礎研究、臨床応用、産学連携を推進し、研究力とブランド力のさらなる強化を目指します。厚生労働省からの依頼により、2025 大阪・関西万博にてパネルと動画で紹介されています。

【大学院スポーツ健康科学研究科・スポーツ健康科学部】

教員採用試験・就職率

教員採用試験は、現役生・既卒生合わせ、129 名（私学専任合格含む延べ人数）が合格しました。うち現役生の合格者数は 66 名でした。企業就職志望者 359 名の就職内定率は 99.4%と、引き続き高水準を維持しました。

国際交流活動の活性化

フィリピン・セブ島に加え、新たに英国カンタベリー・クライストチャーチ大学（CCCU）での海外語学研修を開始し、双方合わせて 31 名の学生が参加しました。また、米・ニューヨークにおいて様々なスポーツビジネスの現場を体験・見学する「ニューヨークスポーツビジネスプログラム（NYSBP）」を開始し、学部生・院生合わせて 20 名が参加しました。

【大学院医療看護学研究科・医療看護学部・保健看護学部】

看護師・保健師・助産師国家試験合格率

医療看護学部は看護師国家試験合格率が 100%、過去 5 年間平均でも 99.9%と高水準を維持するとともに、助産師国家試験は合格率 100%を継続しています。保健看護学部における国家試験合格率は看護師国家試験 98.3%、保健師国家試験 93.3%となり、両学部ともに高水準を維持しています。

	看護師	保健師	助産師
医療看護学部	100%	98.3%	100%
保健看護学部	98.3%	93.3%	—
全国平均（参考）	90.1%	94.0%	98.9%

専門看護師認定実績

大学院医療看護学研究科（博士前期課程）修了生 11 名が令和 6 年度専門看護師（CNS : Certified Nurse Specialist）認定試験に合格しました（慢性疾患看護分野 2 名、小児看護分野 1 名、感染症看護分野 3 名、急性・重症患者看護分野 2 名、老人看護分野 2 名、精神看護分野 1 名）。これまでの CNS 合格者数は、慢性疾患看護分野 29 名、がん看護分野 16 名、精神看護分野 8 名、老人看護分野 7 名、小児看護分野 6 名、感染症看護分野 12 名、母性看護分野 3 名、在宅看護分野 6 名、急性・重症患者看護分野 3 名の合計 90 名です。

グローバルナーシングコース

令和 4 年度より大学院医療看護学研究科にて開設した Global Nursing Course（博士前期課程）、Global Nursing Leadership Course（博士後期課程）は、JICA（国際協力機構）と連携して国際的に活躍できる看護の専門家を育成するという日本初の試みで、留学生向けの英

語による学位取得コースです。令和6年度には新たに Global Nursing Course 1 名、Global Nursing Leadership Course 1 名の入学者を迎えました。また、同コースから初の修了生も輩出し、大学院への進学を希望する留学生に広く門戸を開いています。

短期海外研修

短期海外研修では、医療看護学部から、MOU 締結校であるイギリスのデモンフォート大学およびタイのタマサート大学における研修（いずれも授業科目として2単位）に、14名と4名がそれぞれ参加しました。保健看護学部からは、MOU 締結校であるフィンランドのユヴァスキュラ応用科学大学における研修（2ヨーロッパ単位認定）に12名、ウズベキスタン及び韓国での研修に11名、アメリカ・カリフォルニア州パサディナ市での英語研修に18名が参加しました。

【大学院国際教養学研究所・国際教養学部】

海外留学・研修、英語集中学習プログラム、海外との交流

海外留学（短期・長期）は、令和6年度の留学先は11ヶ国となりました。令和6年度に留学、研修開始した学生は次の通りです。

期間	人数	内訳
長期（1年超）	1名	アメリカ1
長期（1年未満）	14名	アメリカ4、イギリス2、オーストラリア3、カナダ3、ニュージーランド1、フランス1
長期（セメスター）	4名	中国2、UAE1、カナダ1
短期（1ヶ月未満）	62名	韓国10、中国1、ニュージーランド3、フィリピン40、フランス8
短期（2週間未満）	18名	アメリカ6、フィリピン4、タイ8

フィリピン・セブ島現地での英語集中学習プログラムは、40名（夏季37名、春季3名）の学生が約1ヶ月間の研修に参加しました。またセブ島では夏季にフィールドスタディーを実施し、現地で使われる言語の見識を深め、課題提起型アプローチにより貧困・ジェンダー・保健医療に関する問題に取り組むグローバル英語実践研修を行い、この課題提起型グローバル英語実践研修は春季にアメリカハワイ州でも行いました。タイのマヒドン大学との共催セミナーやフィールドワークを通じてプライマリケア・地域保健・国際保健などを学ぶグローバルヘルス海外短期研修は8名の学生が参加し、その他、フランス、韓国、ニュージーランドなどでは語学力習得とともに文化、歴史を学びながらライフスタイルを体験し異文化理解を深めてグローバルな視野を拡げることができる機会に多くの学生が参加しました。

また1年間の特別聴講生として中国河南師範大学から3期生9名と、新たにフランス国立東洋言語文化学院（INALCO）から4名の交換留学生を受け入れ、日本語・日本文化伝統教育カリキュラムの充実と、課程内外で本学部生との有意義な交流が続いています。更にシンガポール国立大学から13名の短期海外研修留学生を受け入れました。

UNHCR 難民映画祭パートナーズ上映会

国連機関の一つである UNHCR（国連難民高等弁務官事務所）は難民を国際的に保護・支援し、難民問題の解決に向けた取り組みを行っており、本学は大学パートナーズとして毎年難民映画を上映し、これを「公開講座」として学外の方々にも参加頂いています。令和6年度は『シャドー・ゲーム～生死をかけた挑戦～』を上映し、運営委員会の学生と教職員が準備・運営にあたり、文京区総務部ダイバーシティ推進部門ご協力のもと開催しました。上映会終了後は、難民支援に向けての一步を踏み出すための学生企画「365 個の小さな行動が創り出す大きな支援の輪 ～プロジェクト ROUTE 365～」を実施し、一般参加の方々と一緒に、難民の人たちの心の痛みに寄り添い世界の一員として自分にできることは何かを考えるきっかけとなりました。

企業就職率・教員採用試験・大学院進学

令和6年度4年生（第7期生）の企業・公務員就職志望者166名の就職内定率は98.8%となり、第1期生からの7年間平均内定率は98.0%と高い水準を維持しました。

教員志望者は公立学校教員採用試験に14名（現役学生13名、既卒者1名）が合格し、学部開設後累計の合格者は36名、私立学校を含めた教員就職者は41名となりました。また教員採用試験3年次早期受験は、11名が受験して8名が合格し次年度の二次試験へ進みました。進学希望者は、本学大学院国際教養学研究科2名、医学研究科10名を含め、16名が国内外の大学院・大学・各種学校へ進学しました。

大学院国際教養学研究科の開設

グローバル化された社会が抱える課題解決に必要な分野横断・学際的な知識・教養である国際教養学を教授し、学士課程で培われた教養教育に裏打ちされた専門的素養を一層向上させ、知識基盤社会を多様に支える高度で知的な素養のある人材養成を目的に、大学院国際教養学研究科修士課程（募集定員5名）が設置されました。第1期生として9名（国際教養学部卒業生4名、他大学卒業生1名、外国人留学生4名）が入学しました。

大学院国際教養学研究科博士後期課程の設置認可申請

分野横断的かつ学際的な視点から多様な知識と教養を統合し、新たな知見や価値を創出できる創造性豊かな研究者を養成することを目的として、博士後期課程（入学定員3名）の文部科学省への設置認可申請を行いました。

国際教養学部開設10周年・国際教養学研究科開設記念講演会開催

国際教養学部・国際教養学研究科が目指す、グローバルヘルスとグローバルコミュニケーションを通じてさまざまな世界課題に立ち向かうという目標を内外に伝え、また広く共有するため、国際連合の活動を代表する中満 泉様（国際連合事務次長）とチリツィ・マルワラ様（国際連合大学学長）のお二人を基調講演者にお迎えして、「国境を超える義務 ～紛争の時代におけるグローバル・コミットメント～」をテーマに記念講演会を開催しました。お二人には昨今の世界情勢を踏まえ、これからの時代を生き抜くための視点や、持続可能な社会の構築に向けたビジョンについて熱く語っていただき、その力強いメッセージに対面とオンラインで400名を超える参加者が熱心に耳を傾け、大きな感銘を受けました。

【大学院保健医療学研究科・保健医療学部】

理学療法士・診療放射線技師国家試験合格率

保健医療学部は学部開設 6 年目を迎え、3 期生が国家試験を受験しました。理学療法士国家試験、診療放射線技師国家試験ともに高い合格率を記録しました。

	受験者	合格者	合格率
理学療法士国家試験	122 名	122 名	100.0%
診療放射線技師国家試験	109 名	104 名	95.4%

第 1 種放射線取扱主任者試験合格実績

第 1 種放射線取扱主任者試験に診療放射線学科の 4 年生 3 名、3 年生 20 名、2 年生 13 名 1 年生 1 名の合計 37 名が合格しました。前年度までに同試験に合格した本学部の学生が、チューデントアシスタントとして、受験予定学生に勉強ノウハウを共有する取組を行っています。また今回初めて 1 年生から合格者が生まれました。

大学院保健医療学研究科博士後期課程の設置認可

令和 6 年 3 月に文部科学省へ設置認可申請を行った大学院保健医療学研究科修士課程（理学療法学専攻・診療放射線学専攻）を基礎とする大学院保健医療学研究科博士後期課程（入学定員各専攻 4 名：合計 8 名）が、令和 6 年 8 月 29 日付で認可されました。

修士課程で培われた理学療法学・診療放射線学に関する専門的知識や技術の基本的応用能力及び当該分野の諸問題に対して体系的に整理し客観的に分析する能力を持つ人材を養成します。

大学院保健医療学研究科修士課程入学定員増

令和 7 年 4 月から大学院保健医療学研究科修士課程の入学定員を各専攻 5 名から 8 名へ 3 名増加する届出を文部科学省へ行いました。

【医療科学部】

第 1 種 ME 技術実力検定試験合格

第 1 種 ME 技術実力検定試験に臨床工学科の 3 年生 1 名が合格しました。この試験は、第 2 種 ME 技術実力検定試験合格者または臨床工学技士国家試験合格者だけが受験でき、合格率が 35%程度と難関であるため、大学在学中に合格することは本学部にとっても大きな誇りです。なお、第 2 種 ME 技術実力検定試験には臨床工学科の 1 年生 4 名、2 年生 12 名（1 年次合格 3 名を含む）が合格しました。

海外短期研修プログラム実施・大学間交流協定締結

夏期海外研修として、臨床検査学科の学生 11 名がカンボジア・プノンペン大学のプティサストラ大学で研修を行いました。なお、同大学とは『国際共同研究』や『学術情報の交換』を目的とした国際交流協定（Memorandum of Understanding：MOU）を締結しました。また、既に MOU を締結しているタイ・バンコクの国立タマサート大学において臨床工学科の学生 14 名が研修を行いました。

【健康データサイエンス学部】

大学院健康データサイエンス研究科（博士前期・後期課程）の設置認可

文部科学省へ設置認可申請を行った健康データサイエンス学部を基礎とする大学院健康データサイエンス研究科博士前期課程（入学定員 20 名）と博士後期課程（入学定員 6 名）が、令和 6 年 8 月 29 日付で認可されました。本研究科は、文部科学省の大学・高専機能強化支援事業「高度情報専門人材の確保に向けた機能強化に係る支援（支援 2）」の助成を受け、データサイエンスの深くかつ広範な専門的知識と専門的技術を備え、国際社会や地域社会における医療・健康・サイバーセキュリティ分野を含む諸課題の解決のためデータサイエンスを実践的かつ応用的に利活用することが出来る高度情報専門人材を養成します。

データサイエンスシンポジウムの開催

健康データサイエンス学部と大学院健康データサイエンス研究科及び大学院医学研究科データサイエンスコースが共催で、データサイエンス公開シンポジウムを 7 月 23 日と 10 月 12 日の 2 回開催しました。本シンポジウムでは「データサイエンスの魅力を語る」をテーマに、1 回目は水野信也教授、坂巻頭太郎准教授、中村知繁助教による講演、2 回目は加藤雅彦教授、小泉和之准教授と大江和彦特任教授による講演を行いました。シンポジウム会場は、本郷・お茶の水キャンパスと浦安・日の出キャンパスをオンラインで接続したハイブリッド形式で実施し、1 回目 24 人、2 回目 89 人の参加がありました。

【薬学部】

薬学部の開設

令和 6 年 4 月に浦安・日の出キャンパスに本学 9 番目の学部となる薬学部（入学定員 180 名）を開設しました。薬学に関する多角的な視点、専門知識及び技能を修得し、臨床実践能力と研究マインドを兼ね備え、健康・福祉の向上に貢献できる人材を養成します。

薬学部開設記念シンポジウム

6 月 14 日に薬学部開設記念シンポジウムを本郷・お茶の水キャンパス小川講堂にて開催しました。「未来に拓く薬学教育を考える」と題して小川理事長による主催挨拶、千葉県薬剤師会会長の杉浦邦夫氏による来賓挨拶からはじまり、「薬学教育モデル・コア・カリキュラム改訂版とそれに対応した実務実習ガイドラインについて」「次世代医療への貢献ー求められる薬剤師職能とあるべき姿ー」などの基調講演の後、活発なパネルディスカッションが行われました。

多職種連携教育（IPE）STEP1 始動

8 月 30 日に医学部・医療看護学部・薬学部の 1 年生がそれぞれの専門性とチーム医療の役割を理解する導入型プログラムのワークショップを開催しました。学部横断型のプログラムのファーストステップとして実施され、実践的に学んでいくことになります。今後、STEP2、STEP3 も実施し、順天堂の多職種連携の学びを深化させていきます。

15. 臨床活動の主な概要

【順天堂医院】

診療支援室・NP 室の設置

医師の業務負担軽減のためのタスクシフトを組織的に行うため、令和 6 年 4 月に診療支援室、令和 7 年 1 月に NP 室を設置しました。診療支援室では、医師事務作業補助者が医師の指示のもと、文書作成補助・診療陪席・医療の質の向上に資する事務作業を行い医師の負担軽減と診療の効率化を図り、病院の運営に貢献しています。また NP 室は、新しいチーム医療の形を創造し、医療の質向上を図ることを目的として設置され、現在は消化器内科、循環器内科、心臓血管外科、総合診療科等に診療看護師を配置し、医師の業務負担軽減に貢献しています。人材育成にも力を入れ、効率的で安全な医療の提供に努めます。

研修医の海外研修（カンボジア・サンライズジャパン病院）

令和 6 年 7 月 8～19 日の日程で、当院研修医 3 名がカンボジアのサンライズジャパン病院にて海外研修を行いました。カンボジアでは日本のライセンスで医療行為ができるため、非常に充実した研修となりました。また日本とは異なる医療制度やデング熱等東南アジア特有の疾患についても学ぶことができました。サンライズジャパン病院とは研修医の受け入れについて既に MOU を結んでおり、来年度以降も院内で選抜した研修医を派遣する予定です。

J-STAT Call 対応訓練

患者やご家族が安心して入院生活を送れるよう、令和 6 年 7 月 4 日に J-STAT Call E（無断離院）、令和 7 年 1 月 31 日に J-STAT Call C（小児連れ去り）の対応訓練を実施しました。訓練には、警備課を中心に、医師や看護師、事務員等の多職種が協力し参加しました。訓練内容は J-STAT Call C・E 発報の訓練放送を聞いた各部署の職員が所定の位置につき、情報掌握・伝達を行いながら対象者を無事に保護するというものです。今後も様々な訓練を実施し、防犯上からも患者に安心して来院頂ける病院を目指します。

大規模地震時医療活動訓練（政府訓練）

令和 6 年 9 月 28 日に政府と連携して、大規模地震時医療活動訓練を実施しました。当院の DMAT 隊員、医師、看護師からなる多職種のスタッフ 35 名が参加し、災害本部の立ち上げ、EMIS と呼ばれる全国との連携システムへの接続による情報共有により、現状分析と課題の整理及び活動方針を策定していく非常に有意義な訓練となりました。なお当日は、JR 北海道厚生連帯広病院から救急医療の専門医をお招きし、的確で分かりやすいアドバイスを頂きました。また令和 6 年 10 月 27 日には、本訓練を生かした大規模な総合防災訓練を実施しました。都内においても首都直下型地震の発生が憂慮される状況にあります。万が一の災害が起きた際には被害を最小限にし、途切れることのない医療が提供できるよう、引き続き実践的な訓練に取り組みます。

癒しの会の再開

令和 6 年 11 月 9 日に、コロナ禍以降開催を休止していた「癒しの会」を再開しました。再開第 1 回目は、順天堂交響楽団による演奏会を実施して、多くの方にお集まり頂き、ひと時の楽しい時間をお過ごしいただきました。癒しの会は、少しでも入院療養中の患者さんの心の癒しになることを願って、休診日となる第二土曜日（不定期開催）に職員によるボランティアで運営しています。今後も多くの患者さんにお楽しみいただけるよう、開催を継続します。

【静岡病院】

増改築工事推進状況

令和7年3月に静岡病院増改築計画が完了し、許可病床数633床での運用が可能となりました。増築されたH棟Ⅱ期棟においては、外来・病棟の拡張のみならず、患者給食用厨房のリニューアル、3.0テスラMRIの増設、中央検査室移転による生化学分析装置フルオートメーション化、手術室3室造設、大会議室の整備等、病院機能の強化を図りました。

TAVI（経カテーテル弁置換術）治療

令和3年11月よりハイブリット手術室の本格稼働に伴い、令和4年3月22日にTAVI（経カテーテル弁置換術）の実施施設に認定されました。TAVIは、重症大動脈弁狭窄症に対する新しい治療方で、カテーテルを使用して心臓に人工弁を留置します。患者の体への負担が少なく、入院期間が短いのが特徴で、これまで182件実施しています。

歯科口腔外科

令和5年9月より新しい診療科として、歯科口腔外科を開設しました。関連の診療科と連携し、入院して全身麻酔による手術・放射線治療・化学療法を行う患者を対象とした周術期口腔機能管理を行い、感染症等に対する予防効果により治療の向上を図ります。また令和6年8月からは入院治療が必要な患者の受け入れも行っています。

地域医療連携推進法人の連携促進

地域包括ケアの実現による地域医療構想実現を目的として、令和3年度に地域の病院により「地域医療連携推進法人 静岡県東部メディカルネットワーク」を立ち上げました。令和6年度は、医療連携の円滑化を目的に地域医療連携システム導入に向け、各施設のシステム接続方法等を確認しました。

看護師特定行為研修

看護師特定行為研修として、新たに「栄養に係るカテーテル管理（抹消留置型中心静脈注射用カテーテル管理）関連」を開講し、計11区分27行為（3パッケージ）の研修を行いました。院内6名、院外3名の受講生が特定行為研修を修了し、令和6年度末時点で43名が在籍しています。

大規模地震時医療活動対応訓練

看護部にて災害時の机上シミュレーションを看護部災害対策委員が年間計画を作成し、各部署にて実施しました。訓練は「アクションカードを活用し初動の理解ができる」「災害時の情報収集・情報伝達の方法を理解できる」を目的としました。1月には看護部全体緊急連絡網訓練を実施し、810人が参加しました。

医療情報システムの更新

令和6年5月に医療情報システムの全面更新、令和7年1月に機能強化を行い、仮想基盤の技術を利用したサーバの統合、サーバの院内複数設置、改ざん防止バックアップ、効率化と対保守性能、安全で安心な情報基盤の整備を図るとともに、処方指示から服薬までを一画面で行える処方指示機能、重症病棟から一般病棟までを一連で管理できる重症カルテ機能を導入し、医療の質や安全面が向上しました。また3月にLINEミニアプリで作られた外来受診支援アプリ「EPARK スマートガイドシステム」の事前登録したクレジットカードによる医療費のあと払い機能追加を行い患者サービスの向上を図りました。

【浦安病院】

結核患者収容モデル病床開設

千葉県より「結核患者収容モデル事業」の指定を受け、4月1日より「結核患者収容モデル病床」を開設しました。従来、当院では合併症を有する結核患者の診療を行うことができず、結核専門病床を有する近隣の病院へ転送する必要がありましたが、同病床の整備により、高度な専門性を要する結核患者の診療を当院で完結できるようになりました。

がん治療センターの拡張

がん患者及び膠原病を有する患者への薬物治療を行うため、当センター内に「薬物療法センター」を整備し、これまで17席で運営してきましたが、患者数増加に伴い拡張工事を実施し、4月1日より6席を増加して23席での運営が可能となりました。

病院機能評価受審

6月20～21日、公益財団法人日本医療機能評価機構による病院機能評価が実施されました。より良い病院運営や質の高い医療提供を目的とし、全教職員が一丸となって取り組みました。受審を機に当院のアピール点や改善点が可視化され、改めて全教職員が当院の現状や今後取り組むべき課題を認識することができました。

大規模地震時医療活動訓練

9月28日、内閣府をはじめとした所管庁や自治体と医療機関等が連携し、相互協力の円滑化を図るため、「首都直下地震」を想定した実動訓練が関東ブロック（東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県）で実施されました。当院は災害拠点病院として多くの患者の来院及び搬送が想定されるため、「いかに重症患者を広域に搬送できるか」を目的に、東葛南部医療圏の活動拠点本部である船橋市立医療センターをはじめとした地域の医療機関や自衛隊と協力し、有事の際の組織体制機能とその実効性を検証しました。

SOGI 相談窓口開設

12月18日より、SOGI（性的指向と性自認）をめぐる取り組みの一環として、「相談窓口（対面）」「ご意見・ご提案窓口（Web）」の受付を開始しました。各窓口で受付けた意見等は、当院の「SOGIをめぐる環境推進委員会」において検討し、院内共有や環境改善へ役立てています。順天堂医院と連携のもと、病院全体でSOGIへの理解を深め、相談者が必要としているサポートに繋げることができる窓口を目標としています。

総合災害訓練

3月1日、総合災害訓練（2部構成）を行いました。前半は、富士通 Japan 株式会社との共同研究講座における教職員安否確認システムの実証実験を含めた「災害発生時の初動訓練」、後半は、浦安市及び浦安市4師会と合同で、大規模災害時協定（令和3年度締結）に基づく「医療救護所設営・連携訓練」を実施しました。特に浦安市との合同訓練は、初めての連携実地訓練となったため、同市と共同でマニュアルの事前整備・確認及び訓練後の検証を入念に行いました。今後も定期的に合同訓練を行い、連携を強化して行きます。

【順天堂越谷病院】

広報活動の強化

広報活動の一環として、市民会館にて健康講座を開催するとともに、医師や診療支援部門からの動画をオンデマンド形式でいつでも視聴できるよう対応しています。病病連携、病診連携の一環として、医療連携だよりを新たに作成し、近隣医療機関に送付しました。診療日割表、診療科案内のリーフレットを東部二次医療圏を中心に送付し、医療連携の強化に努めています。

医療観察法への協力

心神喪失者等医療観察法に基づく指定通院医療機関として、さいたま保護観察所と連携して、対象患者の社会復帰に向けて地域精神医療への貢献を図っています。

病院機能評価受審

12月18日と19日に病院機能評価「精神科病院（3rdG:Ver.3.0）」を、初めて受審しました。日本医療機能評価機構による第三者評価を受けることにより、標準的な精神科病院としての医療機能、医療安全、感染対策等への取り組み、自院が取り組むべき課題等を改めて認識し、病院管理体制の充実や医療の質向上へつなげていくことができました。今回の受審結果を踏まえて、更に質の向上への取り組みを進めていきます。

再編計画進捗状況

埼玉県から認められた一般病床200床増床について、7月より準備工事が始まり、9月には病院開設許可事項一部変更許可を得たことで新棟建設工事が開始されました。令和8年度には、身体合併症を有する精神疾患患者の救急医療、パーキンソン病及び関連疾患の神経難病、難治性疾患の膠原病専門医療、地域包括ケア、がんの高度専門医療、緩和ケアを新たな医療機能として持つ病院となります。

【順天堂東京江東高齢者医療センター】

医療情報システムの更新

令和7年12月から令和8年1月にかけて医療情報システムの更新を行いました。ハードウェアの更新、Windows11対応、サイバー攻撃対策、遠隔地バックアップ、二要素認証など「医療情報システムの安全管理に関するガイドライン」に準拠する対応を行いました。ダッシュボード機能を追加し、患者数、病床利用率、看護重症度などリアルタイムに確認することが可能となりました。受診番号確認アプリ「ポケメド」、自動再来受付機とマイナタッチの連動による「マイナンバーカードでの再診受付」など高齢者の方でも簡単にできるIT化を行い、患者サービス向上、業務効率化を図りました。

医療連携強化

9月に5年ぶりに医療連携フォーラムを開催し、近隣医師会、連携医など149名に出席頂きました。近隣3区の医師向けに最新の診療ガイドライン及びエビデンスと医療情報の提供を目的とした「高齢者医療に関するWEB学術講演会」を毎月1回実施しています。

地域包括医療病棟入院料

10月より7B病棟（48床）について、地域包括医療病棟へ変更の届出をしました。軽症・中等症の高齢者救急患者を積極的に受け入れ、リハビリテーションや栄養管理、入退院支援などを包括的に提供し、早期の在宅復帰に繋げています。

医師事務作業補助者体制加算 2 20 対 1

9 月より、40 対 1 から 20 対 1 へ変更の届出をしました。診断書等の文書作成補助、診療記録への代行入力等においてこれまで以上に業務の幅を広げることができ、医師の事務作業の負担軽減に貢献することができました。

アミロイド PET の実施拡大

アミロイド PET の実施によりアルツハイマー型認知症の早期発見、早期治療が可能となっています。今年度は近隣の医療機関からの紹介で実施することも多く、地域医療に貢献することが出来ています。

MRI 装置の更新

9 月に 1.5T MRI 装置を更新しました。月間約 350 件の検査を実施しており、撮像時間の短縮や高画質化により、検査数増加、診断能向上、高齢者や認知症患者への検査環境が向上しました。

【順天堂練馬病院】

2 号館増築棟竣工

既存 2 号館東側隣接地において、2 号館増築棟が 9 月に竣工しました。既存 2 号館隣地の土地を取得し、「臨床研修医の勤務環境の改善」「歯科外来の充実」を目的として令和 5 年年 6 月より着工し、トラブルなく竣工を迎えました。歯科外来、臨床研修センター、医師事務作業補助等が順次移転し、充実した環境で勤務を行っています。特に歯科外来においては、従来の 1 室から 3 室に拡充し、マウスピースや義歯の作成等、診療の内容もより充実し、病院での診療に貢献するものとなりました。

近隣医師会、医療機関との交流

初診患者の増加を目的として、近隣医師会との交流を拡充しました。7 月 4 日に杉並区医師会との交流会を開催いたしました。前半は当院の院内見学を行い、後半は当院の概要や医療連携等について講演を行いました。64 名（杉並区医師会 26 名、当院 38 名）が参加し、杉並区医師会の先生方からは、患者紹介に関して各診療科に向けたご意見を多数頂きました。これに加えて、8 月 29 日には「令和 6 年度医療連携の会」をホテルメトロポリタン池袋において開催し、12 月 5 日には「在宅医療連携の会」を練馬区立区民・産業プラザココネリにおいて「自分らしく毎日を過ごすために」をテーマとして開催しました。

がん相談支援センター移転

1 月にがん相談支援センターを 3 号館地下 1 階（化学療法室の隣）から、1 号館 2 階の入院受付・入退院支援スペースへ移動しました。相談場所が 1 号館受付付近となり、来院者にとって利便性が向上しました。今後もより多くの患者さんの相談を受け入れる予定です。

令和 6 年度新興感染症対応訓練実施

2 月 5 日に令和 6 年度新興感染症対応訓練を開催しました。新興・再興感染症に関する講義や、感染が疑われる患者の検査依頼から検体採取までを想定した一連の流れについて、患者受入・診察・検体提出までの訓練を練馬区保健所や近隣の医療機関と連携して実施しました。

16. 国際交流活動

【大学交流協定について】

プティサストラ大学（カンボジア）、空軍軍医大学（中国）、華中科技大学（中国）、南開大学（中国）、カンタベリークライストチャーチ大学（イギリス）、ベトナム人民公安スポーツ協会（ベトナム）、龍仁大学校（韓国）、東西大学（韓国）、中山医学大学（台湾）と協定を新たに締結し、協定機関は 29 カ国／地域、89 機関となりました。

海外協定機関一覧

29カ国/地域・89機関（2025年3月31日 現在）

アジア

中国（23）

空軍軍医大学
北京体育大学
中国医科大学
中国リハビリテーション研究センター
中日友好医院
大連医科大学
大連理工大学
復旦大学
ハルビン医科大学
河南師範大学
華中科技大学
江蘇省中醫院
蘭州大学
南開大学
寧夏回族自治区人民醫院
寧夏医科大学
北京大学
北京大学国際医院
北京大学人民醫院
四川大學
天津医科大学
広西医科大学第一附属医院
香港大学

インドネシア（4）

アイランガ大学
ガジャマダ大学
パジャジャラン大学
インドネシア大学

韓国（5）

漢陽大学
仁済大学
蔚山科学技術大学
龍仁大学校
東西大学校

カンボジア（1）

プティサストラ大学

マレーシア（1）

マラヤ大学

ミャンマー（2）

国立保健研究所
ヤンゴン第一医科大学

フィリピン（1）

パーベチュアル・ヘルプ大学

シンガポール（1）

シンガポール国立大学

台湾（7）

台湾中国医药大学
中山医学大学
高雄医学大学
国立台湾大学
台北医学大学
元培医事科技大学

タイ（8）

チェンマイ大学
チュロンコン大学
カセサート大学
メーファラン大学
マヒドン大学
ランシット大学
スラナリー工科大学
タマサート大学

ベトナム（3）

108陸軍中央病院
ベトナム軍医大学
ベトナム人民公安スポーツ協会

大洋州

オーストラリア（1）

西シドニー大学

ニュージーランド（1）

オタゴ大学

北米

アメリカ（12）

ブリガムアンドウィメンズ病院
ジョンズホプキンス大学
スタンフォード大学
カリフォルニア大学デーヴィス
カリフォルニア大学アーヴァイン
ハワイ大学
マイアミ大学
ミネソタ大学
ニューメキシコ大学
MDアンダーソンがんセンター
ヴァンダービルト大学
バサディナシティカレッジ

中南米

ブラジル（1）

ペルナンブコ連邦大学

欧州

ベルギー（1）

ブリュッセル自由大学

デンマーク（1）

オールボー大学

フィンランド（1）

ユヴァスキュラ応用科学大学

フランス（3）

脳脊髄研究所
フランス国立東洋言語文化学院（INALCO）
ストラスブール大学

ドイツ（2）

シャリテ医科大学
ルートヴィヒマクシミリアン大学ミュンヘン

ハンガリー（1）

ゼメルバイス大学

ポーランド（1）

ボズナン医科大学

ロシア連邦（1）

カザン連邦大学

スペイン（2）

カルロスIII世大学
サラマンカ大学

イギリス（2）

カンタベリークライストチャーチ大学
デモントフォート大学

ウズベキスタン（1）

ウズベキスタン保健省

中東

バーレーン（1）

アラビアンガルフ大学

イラン（1）

テヘラン医科大学

トルコ（1）

アジュバーデム大学

【順天堂大学教員のサバティカル研修について】

教員のサバティカル研修制度を実施しています。サバティカル研修とは、教育・研究の遂行に必要な資質の向上を図るため、教員自らが研究目標を定めて一定の期間にわたり国内外の教育・研究機関において研究活動に専念する研修のことを指します。海外で学位を取得した研究者や海外での教育研究歴を有する者の獲得、または若手教員のキャリア支援にとって有効な制度の一つとして考えられており、国内外の多くの大学が取り入れています。

本学にとって、国際化を推進し、優秀で多様な人材を育成・確保していくことは喫緊の課題となっています。また優秀な若手教員のグローバル・ファカルティ・ディベロップメントのニーズに応えることは本学の発展に欠かせません。令和6年度は医学部から1名を派遣しました。

【留学生の研修・交流活動について】

「留学」の在留資格を有する長期外国人留学生は24カ国／地域 343名在籍しました。

○ 外国人留学生【在留資格：留学】（令和6年4月1日から令和7年3月31日まで）

No	国／地域名	人数	No	国／地域名	人数	No	国／地域名	人数
01	中国	282	10	ベトナム	3	19	コンゴ民主共和国	1
02	台湾	10	11	マレーシア	3	20	バングラデシュ	1
03	ミャンマー	6	12	モンゴル	3	21	ブータン	1
04	韓国	6	13	インド	2	22	フランス	1
05	パキスタン	4	14	ウズベキスタン	1	23	ルーマニア	1
06	メキシコ	4	15	オランダ	1	24	大韓民国	1
07	インドネシア	3	16	ギリシャ	1			
08	タイ	3	17	グアテマラ	1			
09	ネパール	3	18	コンゴ共和国	1	合計：24カ国／地域 343名		

※集計対象：正規学部生、正規大学院生、研究生

○ 海外からの短期研修生（令和6年4月1日から令和7年3月31日まで）

No	国／地域名	人数	No	国／地域名	人数	No	国／地域名	人数
01	中国	52	18	スペイン	4	35	ブータン	1
02	ドイツ	50	19	香港	4	36	フランス、日本	1
03	台湾	45	20	モンゴル	3	37	ブルガリア、イスラエル	1
04	タイ	42	21	アラブ首長国連邦	2	38	ベトナム	1
05	イギリス	38	22	トルコ	2	39	ペルー	1
06	日本	29	23	ブラジル	2	40	ポーランド	1
07	アメリカ	18	24	アイルランド	1	41	メキシコ	1
08	フランス	16	25	イエメン	1	42	ラオス	1
09	シンガポール	13	26	イギリス、ドイツ	1	43	リトアニア	1
10	オーストラリア	11	27	イタリア、ブラジル	1	44	ルクセンブルク	1
11	マレーシア	11	28	コロンビア	1	45	レバノン	1
12	フィリピン	10	29	サウジアラビア	1	46	日本、アメリカ	1
13	韓国	10	30	チェコ、ベトナム	1			
14	インドネシア	9	31	ニュージーランド	1			
15	イタリア	7	32	ノルウェー	1			
16	オーストリア	7	33	ハンガリー	1			
17	インド	4	34	バングラデシュ	1	合計：38カ国／地域 412名		

※海外の大学に在籍する日本人学生を含む。

【学術交流について】

大学間交流イベント等を開催しました。

開催日	相手先	内容
4月1日	蘭州大学第二医院（中国）	同機関関係者来訪・協議
4月11日	中国大原日本語学校（中国）	同機関関係者来訪・協議
4月15日	華中科技大学同済医学院附属協和医院（中国）	同機関関係者来訪・協議
5月7日	皮膚科専門家（中国）	同機関関係者来訪・協議
5月22日	中華医学会（中国）	同機関関係者来訪・協議
6月12日	河北省保定市衛生健康委員会（中国）	同機関関係者来訪・協議
6月18日	中国医科大学（中国）	同機関関係者来訪・協議
8月21日	国家中医薬管理局（中国）	同機関関係者来訪・協議
9月5日	マヒドン大学病院（タイ）	同機関関係者来訪・協議
9月19日	華中科技大学（中国）	同機関関係者来訪・協議
10月1日	シンガポール経営大学（シンガポール）	同機関関係者来訪・協議
11月1日	仁済大学（韓国）	ジョイントセミナー開催・協議
11月13日	河北省保定市衛生健康委員会（中国）	同機関関係者来訪・協議
11月14日	北京大学第三医院（中国）	同機関関係者来訪・協議
11月24日	タイ政府団体（タイ）	同機関関係者来訪・協議
11月27日	クウェート医療訪問団、大使館（クウェート）	同機関関係者来訪・協議
12月9日	華中科技大学同済医院（中国）	同機関関係者来訪・協議
12月16日	中国国家衛生健康委員会（中国）	同機関関係者来訪・協議
12月17日	広西医科大学第一附属医院（中国）	同機関関係者来訪・協議
12月17日	北京大学（中国）	同機関関係者来訪・協議
2月25日	タイ医学会（タイ）	同機関関係者来訪・協議

17. 文部科学省等採択事業の概要

私立大学等研究設備整備費等補助金・私立学校施設整備費補助金

令和6年度文部科学省「私立大学等研究設備整備費等補助金（私立大学等研究設備等整備費）」に大学院医学研究科アトピー疾患研究センター分子生物学研究室から事業申請した研究設備「共焦点レーザー顕微鏡 カールツァイス LSM900」及び医学部解剖学・生体構造科学講座から事業申請した教育基盤設備「リサーチスライドスキャナー VS200」が採択されました。また令和6年度私立学校施設整備費補助金（私立大学・大学院等教育研究装置施設整備費）に大学院医学研究科環境医学研究所から申請した研究装置「高速ナノスケール・超解像イメージング解析システム」及び保健医療学部から事業申請した教育装置「1.5 テスラ MRI 装置（Vantage Gracian）」が採択されました。

ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）

文部科学省「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（女性リーダー育成型）」（令和4年度採択）について、本年度も引き続き東京科学大学（旧：東京医科歯科大学）と連携して女性研究者のライフイベント及びワーク・ライフ・バランスに配慮した研究環境の整備を実施し、女性研究者の研究力向上のための取組として、オンラインにて合同シンポジウム等を開催しました。ライフイベントにより研究中断、あるいは離職した女性研究者の復帰・復職支援及び女性研究者の上位職への積極登用に向けた取組を行い、「グローバル女性リーダーの育成・輩出」と「医療系大学における女性上位職登用促進モデルの構築」を実現するため、数値目標を掲げ、独自のアイディアで全学を挙げ取組んでいます。

研究拠点形成費等補助金事業

文部科学省研究拠点形成費等補助金「次世代のがんプロフェッショナル養成プラン」（代表校：東京医科歯科大学、連携校：順天堂大学、慶應義塾大学、国際医療福祉大学、東海大学、東京歯科大学、東京薬科大学／補助事業期間：令和5～10年度）に採択されています。

本事業では、①現場で顕在化している課題、②予防の推進、③新たな治療法の開発、というがん医療のテーマを解決するため「専門的な多職種人材」の養成を目的としています。本事業の特色は首都圏の7大学においてチーム医療が実践できる多職種のがん専門医療人の養成プランを開発し、がんの予防、診断・治療、個別化医療、痛みのケア、サバイバーのケアなど全てのステージにおいて集学的治療が提供できる体制を我が国に構築することを目指しています。

統計エキスパート人材育成プロジェクト

大学共同利用機関法人情報・システム研究機構 統計数理研究所が中核機関となる令和6年度文部科学省人工知能等社会実装研究拠点事業費補助金「統計エキスパート人材育成プロジェクト」の参画機関として、大学院生等に対してデータ分析等の基礎となる統計学の講義や統計活用研究の指導を行うことができる「大学統計教員」を育成します。これらの教員が中核となり、さらに全国の大学等で「統計エキスパート」を育成する体制の構築を目指します。

高度医療人材養成拠点形成事業（高度な臨床・研究能力を有する医師養成促進支援）

令和6年度に採択された当該事業では、東南アジアを中心とした国際的な大学間の研究センター、教育ネットワークを構築し、国際共同研究を行っています。また汎用人工知能 Artificial General Intelligence (AGI) 技術が優れているソフトバンクや電気通信大学、臨床推論、希少疾患の研究に優れる佐賀大学と連携し研究を行っています。

グローバル AGI 総合診療・感染症研究・教育推進室を立ち上げ、AGI を用いた臨床、研究、教育を推進させるため①世界の感染症の流行、診断、②症候学、臨床推論、③ポルフィリン症やウィルソン病等希少疾患、④診療の効率化、⑤医学教育の効率化、有効性に関する研究を開始し、加えてグローバル AGI 総合診療・感染症研究・教育推進プログラムを日本語、英語で作成し、連携している大学間の教育ネットワークを用いて履修プログラム、博士課程においても提供することを進めます。更に研究、教育に関して当該プログラムを SA・TA・SA 制度にも構築し、診療参加型臨床実習の充実を目指し取り組んでいきます。

地域中核・特色ある研究大学 施設整備事業

文部科学省「地域中核・特色ある研究大学 施設整備事業（提案大学：順天堂大学、連携機関：山梨大学）」（令和 5 年度採択）について、「高齢者を加齢性疾患から守った上で、若年者を含む全世代の生活向上と健康増進を図る」という地球規模の社会課題の解決のため、本学は臨床に直結する神経科学研究全般分野の特色ある実績を活かし、当該分野のパラダイムシフトに関わる重要な学際領域であるグリア細胞研究に実績を有する山梨大学と連携し、世界トップクラスの研究力の向上、拠点発スタートアップの創出を目指し、変革に対応しうる人材を育成し、この若手人材を核とした新たな当該研究領域における産学官連携ハブとして相補的な機能を有する拠点施設ニューロン-グリア クロストークセンター順天堂（NGCC 順天堂）を整備し、山梨大学が整備するニューロン-グリア クロストークセンター山梨（NGCC 山梨）と強固に連携します。令和 6 年 2 月より NGCC 順天堂の新築工事を進め、令和 7 年 3 月 31 日に竣工しました。今後は建物内部の什器・AV 機器・LAN 環境等を整備し、山梨大学や海外の大学と連携し、当該学際領域を核とした幅広い分野の研究力向上を加速します。

JST 共創の場形成支援事業（COI-NEXT）

JST 共創の場形成支援事業（COI-NEXT）の共創タイプ・育成型「災害など危機的状況から住民を守る レジリエントな広域連携医療拠点」（令和 5 年度採択）について、本拠点のビジョン、ターゲット、研究開発課題のブラッシュアップ、産学官連携強化、事業化に繋げるための MR4A コンソーシアムの設立について、戦略的に実施しました。また元町ウェルネスパーク内に、本拠点事務局及びコンソーシアム事務局を設置・開設しました。また令和 6 年度に、育成型から本格型への昇格審査を受け、令和 7 年度 COI-NEXT・共創タイプ・本格型昇格拠点「災害など危機的状況でもヒト・モノ・ココロがつながる健康医療共創拠点」（代表機関：順天堂大学、参画する連携機関：8 大学、23 企業等、6 自治体、補助事業の期間と規模：3.2 億円／年、10 年間、令和 7～16 年度）として採択されました。

本事業では、複数の大学が連携することにより広域連携医療拠点を構築し、東日本大震災等の長期的な調査研究から得られた様々な知見に基づき、災害後の亜急性期から中長期における住民の健康課題を解決する技術を開発することにより、災害後も誰一人取り残さず、中長期にわたって健康でいられる社会の実現を目指します。

18. 教育研究施設・設備の充実

【本郷・お茶の水キャンパス】

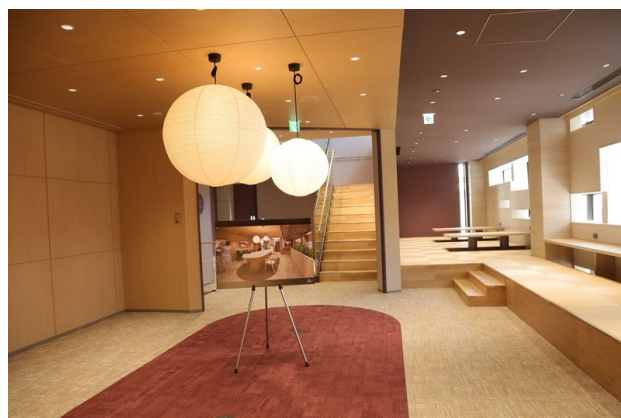
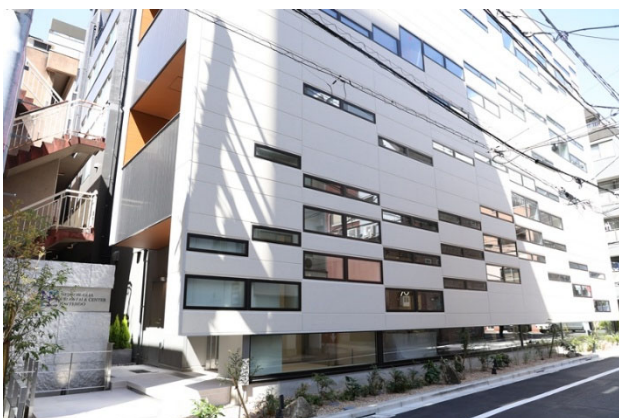
留学生寮（ドミトリ－御茶ノ水・聖台）新築工事

本郷・お茶の水キャンパス近傍に留学生寮を新築し、令和6年8月末日に竣工しました。この留学生寮により、外国人留学生の受入環境が整備され、より一層の国際化の推進を図ります。



ニューロン－グリア クロストークセンター（NGCC）新築工事

文部科学省「地域中核・特色ある研究大学の連携による産学官連携・共同研究の施設整備事業」により建設を行い、令和7年3月末日に竣工しました。連携研究機関である山梨大学におけるグリア研究の実績・技術を応用することにより、新たな病態神経学領域の発展の拠点となることが期待されます。



MRI 入替工事

保健医療学部において、令和6年度私立学校施設整備費補助金（文部科学省）に採択されたことを受け、令和7年1～3月にかけて、診療放射線学科実習棟4階に設置されているMRI装置の入替作業を行いました。既存のMRI装置は附属病院から移設した機器であり、初期設置から約15年が経過し老朽化が顕著でしたが、最新機器への入れ替えが実現したことで教育研究環境の更なる改善・強化につながりました。



【さくらキャンパス】

サッカー場人工芝更新

サッカー場の人工芝更新工事が完了し令和7年3月21日に引き渡されました。サッカー日本代表の強化拠点に採用された高性能な人工芝に更新され、表面温度の上昇を抑える「VIU システム（散水システム）」も導入されており、より快適にプレーできるよう整備されました。今後は、実技授業や男子蹴球部の練習・公式戦はもちろん、地域向けスポーツ教室など、さまざまなアクティビティの場として活用される予定です。



更新前

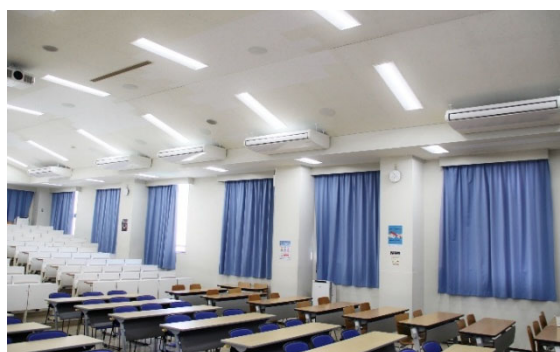


更新後

【浦安キャンパス】

A 棟空調設備更新工事

短期大学時代から使用してきた空調設備の更新工事の第2期が完了しました（全3期）。照明のLED化も並行して進めており、良質な学習環境を提供するだけでなく、キャンパス全体の電気使用量の削減（－9.8%）にも貢献しています。



【浦安・日の出キャンパス】

Ⅲ期校舎（3号館・4号館）整備

浦安・日の出キャンパスⅢ期校舎（3号館・4号館）が令和7年1月に竣工しました。3号館は主に薬学部が実習・実験を行い、1階には研究基盤センターを配置し、5階には疾患モデルセンターを有します。4号館は主に薬学部が授業や実習を行います。4号館の側面には薬用植物園（温室を含む）も配します。



19. 大学キャンパス・ホスピタル再編事業計画について

平成 31 年 3 月のプロポーザルから約 6 年間に渡り計画を進めてきた旧元町小学校の整備と元町公園との一体的活用整備事業について、令和 7 年 3 月 27 日に竣工式および開所式を執り行い、4 月 1 日に開設しました。

本施設は本学の社会貢献の拠点として、産官学民が連携し「100 年後の未来の子どもたちに繋がる地域の拠点づくり」をテーマに、幅広い事業を展開していきます。地域の新たな拠点として世代間交流の場になるとともに、災害時の避難所としての機能も兼ね備えています。



外観（パース）



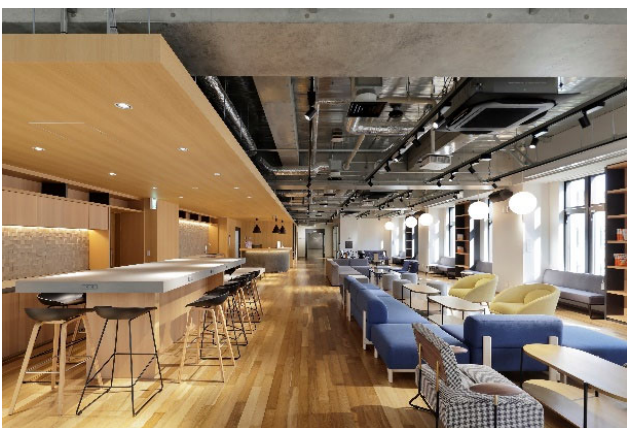
東館 2 階 病児・病後児ルーム



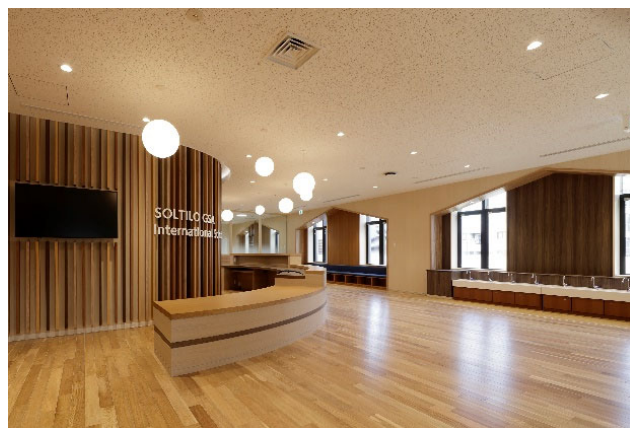
東館 3 階 歴史展示室



西館地下 2 階 体育館



西館 3 階 元町ラボ・オープンスペース



西館 4 階 インターナショナルスクールプリスクール

20. スポーツ分野での活躍

○パリオリンピック・パラリンピックでの活躍

2024 年パリオリンピックにおいて、本学の卒業生たちが体操競技や陸上競技で活躍しました。続いて開催されたパラリンピックにも本学関係者が多く出場し、本学の卒業生が男子ゴールボールで初の金メダルを獲得する等、大いに活躍しました。

初出場ながら開会式で日本選手団の旗手を任された石山大輝選手（大学院博士前期課程 2 年）は男子走幅跳（視覚障害クラス）で、5 位入賞を果たしました。

東京大会に続き、2 大会連続出場の荻原虎太郎選手（4 年）は男子競泳（運動機能障害クラス）の 3 種目に出場。男子 100m 自由形は決勝進出を逃しましたが、男子 200 個人メドレーでは 7 位入賞、男子 100m 背泳ぎでは 8 位入賞と東京大会では叶えられなかった個人種目での入賞を果たしました。

同じく 2 大会連続出場の山崎晃裕選手（学生課職員）は男子やり投げ（上肢障害クラス）で 7 位入賞と東京大会の 7 位に続き、2 大会連続の入賞を果たしました。



開会式で旗手を務めた男子走幅跳
石山大輝選手 写真提供/共同通信社



男子競泳 荻原虎太郎選手
写真提供/共同通信社



男子やり投げ 山崎晃裕選手
写真提供/共同通信社

○全国大会の活躍から

【体操競技】

体操競技部は第 78 回全日本学生体操競技選手権大会で、男子は 5 大会連続の 15 度目の団体優勝を果たしました。種目別では、鉄棒で谷田雅治選手（2 年）と野田漣音選手（1 年）が同点優勝。谷田選手は個人総合でも 2 位になり、個人総合 6 位の戒耀汰選手（2 年）とともに団体 5 連覇に貢献しました。女子も団体 3 位と健闘し、チームを牽引した笠原有彩選手（2 年）は、種目別で跳馬と段違い平行棒でトップの成績となり、個人総合の初優勝を果たしました。



体操競技部 男子団体 5 大会連続の 15 回目の優勝



体操競技部 女子個人総合優勝 笠原有彩選手

【陸上競技】

陸上競技部は第93回日本学生陸上競技対校選手権大会で、男子が4大会連続の32回目の総合優勝を果たしました。種目別では110mハードルで阿部竜希選手（3年）、3000m障害で村尾雄己選手（3年）、走高跳で原口颯太選手（2年）、走幅跳で田中隆太郎選手（4年）の4選手が優勝しました。

女子は総合5位と健闘し、種目別では100mハードルで本田怜選手（大学院博士前期課程1年）、女子10000mで梅野倅子選手（4年）が優勝しました。



陸上競技部 男子総合4大会連続の32回目の優勝



日本選手権 35km 競歩優勝 梅野倅子選手

梅野倅子選手は、9月に東京で開催される世界選手権の代表選考会を兼ねた第109回日本選手権35km競歩で、参加標準記録を突破して優勝、2大会連続の世界選手権の出場を決めました。

【その他各運動部の活躍】

全日本インカレで男子フットサル部、女子剣道部が3位入賞を果たした他、男女バレーボール部、男女ハンドボール部、男女柔道部等が活躍しました。ソフトボール部は創部初のインカレ出場を果たし、今後の更なる活躍が期待されます。

21. 高大連携の取組

本学は高等学校との連携事業を積極的に進めています。大学教員による出張講義や大学生と高校生の共同授業などの相互交流を通じて、高校生が将来を見据えた進路を選択する際に、それらの経験が一助となることを願い、様々な取組を行っています。令和6年度は新たに27の高等学校と高大連携に関する協定を締結し、協定校は57高校となりました。相互の交流を通じて高等学校の生徒たちの視野を広げ、学習意欲を高めるとともに、大学教育と高等学校教育との連携を図り、互いの教育の更なる活性化を目指しています。

【令和6年度連携協定締結校（27 高校）】

協定締結日	高等学校名
4月19日	大妻中野高等学校
5月15日	国府台女子学院高等部
5月20日	桜丘高等学校
6月18日	十文字高等学校
6月20日	晃華学園高等学校
6月25日	茨城高等学校
7月17日	福知山成美高等学校
8月 1日	東洋高等学校
8月 2日	啓明学園高等学校
8月27日	錦城学園高等学校
8月28日	静岡聖光学院高等学校
9月 2日	駒込高等学校
9月 3日	関東学院高等学校
9月10日	実践女子学園高等学校
9月18日	静岡県立沼津東高等学校
10月10日	千葉県立幕張総合高等学校
10月15日	東京学芸大学附属高等学校
10月29日	本庄第一高等学校
11月11日	江戸川女子高等学校
11月13日	千葉県立我孫子高等学校
12月 3日	静岡県立清水西高等学校
12月10日	不二聖心女子学院高等学校
12月11日	金蘭千里高等学校
12月12日	文化学園大学杉並高等学校
12月16日	八雲学園高等学校
3月11日	東京都立駒場高等学校
3月25日	船橋市立船橋高等学校

【高大連携取組事例】



高校での出張講義



メディカルテクノロジー・シミュレーションセンター（センチュリータワー11階）での体験実習



日本医学教育歴史館（センチュリータワー17階）での学修

22. 中期的な計画の進捗・達成状況及び令和7年度事業計画策定

1. 中期的な計画の進捗・達成状況について

令和2年度から令和6年度までの事業に関する中期的な計画に対する当期の実施状況をホームページに公表しました。

(<https://www.juntendo.ac.jp/about/pr/information/>)

2. 令和7年度事業計画について

健康総合大学としての教育・研究・臨床の更なる向上を図るために、次の事項を令和7年度事業計画として策定しました。

【教育に関する計画】

- (1) 教育・学生支援機構を中心として、全学共通教育の企画開発を推進し、学部・研究科横断的に教育・学生支援を行う体制を整備する。
- (2) 学修者本位の教育に向けて教育プログラムの点検、改善を進め、教育の質保証向上に資する教学マネジメントシステムの整備に取り組むとともに、組織的・体系的なFD・SD研修の充実を図る。
- (3) 教育課程に応じ、学生の学修成果をIR (Institutional Research) データを活用して、適切に把握・評価することができる評価方法や指標を導入する。
- (4) 高大連携校等、高校の交流事業を積極的に推進するとともに、入学試験改革を継続して取り組み志願者数の増加を図る。

【研究に関する計画】

- (5) 基礎研究及び臨床研究の基盤強化・充実を図り、学内外の機関との共同研究の強化・産学連携の推進を図り、科学研究費補助金等の競争的研究費獲得（令和6年度科研費実績16.4億円の上乗せを目指す）について、URAを中心とした研究支援を組織的に行うとともに、その成果を国内外に広く広報する。
- (6) 若手研究者の育成と女性研究者躍進のための支援の充実を図る。
- (7) 研究不正防止体制の拡充として、各部門でのコンプライアンス教育、研究倫理教育等の研究不正防止体制を拡充し、研究の国際化に対応するために、安全保障輸出管理体制の効果的な運用を組織的に行う。
- (8) 産学連携の推進を図るために、異分野・異業種との共創・学際的研究を推進し、共同研究・受託研究への展開を図り、研究成果及び知的財産等を社会へ還元し、社会実装化を目指す。
- (9) 世界トップクラスの研究力の向上と研究拠点発スタートアップの創出を目指す。

【社会貢献・社会連携に関する計画】

- (10) 『社会連携・社会貢献に関する方針』に則り、地域のニーズを捉えた専門性の高い市民（都民）公開講座等を開催するほか、各自治体と連携し、社会貢献活動への学生・教職員の参加を積極的に進める。
- (11) 多彩な媒体の特徴を活かした効率的な広報活動を展開し、多様な教育・研究・臨床活動の成果を積極的に情報発信する。

【国際化に関する計画】

- (12) 外国人留学生を含む外国人学生の一層の増員に取り組み、外国人学生受け入れのための教育カリキュラム、学習・居住環境の充実を図る。
- (13) 学生及び研究者の国際交流活動を推進し、海外の研究機関等との連携協定締結に向けた諸活動を活性化する。
- (14) 本学学生の国際化を図るため、各学部横断的な情報共有を行い、効果的な留学プログラムや支援活動を進める。

【臨床に関する計画】

- (15) 高い病床利用率を目指すとともに、医療経費をはじめとする経費の効率的使用により経費の削減を図り、病院運営基盤の強化を図る。
- (16) 高度先進医療の充実と地域医療への貢献を軸として各附属病院の特色を活かした医療を展開する。
- (17) 海外から高度先進医療を求めて受診するインバウンド患者の積極的な受け入れを図る。
- (18) 医師の働き方改革を適正に運用し、タスクシフト／シェアを進める。
- (19) 附属病院の医療情報システムから得られる臨床データの活用基盤を整備し、適切な二次利用を推進する。
- (20) 医療 DX を推進し、医師及びその他の医療従事者の業務負担軽減を図るとともに、患者満足度の向上を実現する。
- (21) 病病、病診連携を強化するとともに、広報に注力し、新規患者の獲得を目指す。
- (22) 各附属病院の機能や地域特性に応じて救急車搬送患者を積極的に受け入れ、地域の救急医療に貢献する。
- (23) 外来での画像診断、採血、各種検査を積極的に実施し、疾病の早期発見や内服薬の副作用確認等、患者一人一人に最適な医療を提供する。

【管理運営に関する計画】

- (24) 経常収支差額の改善を図るべく、収支改善策を着実に実行し、財務基盤の強化を目指す。
- (25) 資金収支、特に施設設備支出については収支バランスを勘案のうえ計画する。
- (26) 教学及び医療をはじめとする様々な業務について、DX (Digital Transformation) を推進するための人材育成、データドリブンに基づいた意思決定、生成系 AI を用いて、更なる業務の最適化、効率化を図る。
- (27) 首都直下地震、南海トラフ地震の発生を想定し、危機管理体制の更なる改善と被災時に教職員が適切な対応がとれるように研修訓練に努める。

【キャンパス・ホスピタル再編事業】

- (28) 順天堂越谷病院の再編計画は、精神科単科病院から埼玉県東部医療圏において求められている地域密着型の病院として住民の医療ニーズに対応した新病院を整備するとともに、収支差額の黒字を確保できるように検討を進める。
- (29) 元町ウェルネスパークを円滑に立ち上げ、代表事業者として関係企業と協力して①健康増進、②医食同源、③子育て支援、④医療産業育成、⑤地域の賑わい、⑥防災連携などについて持続的運営が可能となるように取り組む。

23. 令和6年度事業の収支及び財務状況の概要

当期の事業収支及び財務状況について、その概況を報告します。なお金額は百万円未満を端数処理(四捨五入)して表記していますので、合計と一致しないことがあります。

(1) 資金収支計算書

(収入の部)

単位：百万円

科 目	補正後予算	決 算	差 異
学生生徒等納付金収入	13,948	13,922	26
手数料収入	660	646	14
寄付金収入	1,169	1,337	△ 168
補助金収入	8,737	8,849	△ 112
資産売却収入	14	1,135	① △ 1,121
付随事業・収益事業収入	6,922	7,312	② △ 390
医療収入	187,039	186,981	58
受取利息・配当金収入	177	228	△ 51
雑収入	2,895	3,420	③ △ 526
借入金等収入	17,380	17,410	△ 30
前受金収入	3,457	3,680	△ 223
その他の収入	34,046	34,227	△ 181
資金収入調整勘定	△ 37,801	△ 38,594	793
① 当年度資金収入合計	238,641	240,554	△ 1,912
前年度繰越支払資金	59,729	59,729	△ 0
収入の部合計	298,371	300,283	△ 1,912

① 当年度資金収入合計

予算と比較し、約19億円上回り、約2,406億円となりました。

【主な要因】

- ① 短期運用資産の取り崩し等により、資産売却収入が約11億円上回りました。
- ② 企業等からの受託事業収入や特許権等収入が増加したことにより、付随事業・収益事業収入が約4億円上回りました。
- ③ 公的資金に係る間接経費や私立大学退職金財団交付金収入が増加したことにより、雑収入が約5億円上回りました。

(支出の部)

科 目	補正後予算	決 算	差 異
人件費支出	77,842	76,923	919
教育研究経費支出	34,199	35,110	△ 911
医療経費支出	88,978	89,864	△ 886
管理経費支出	6,228	6,088	140
借入金等利息支出	57	55	2
借入金等返済支出	3,185	3,255	△ 70
施設関係支出	20,901	16,625	① 4,276
設備関係支出	12,753	10,123	② 2,630
資産運用支出	1,550	1,179	371
その他の支出	15,729	15,922	△ 193
予備費	1,649	0	1,649
資金支出調整勘定	△ 15,329	△ 17,012	1,683
② 当年度資金支出合計	247,740	238,130	9,610
次年度繰越支払資金	50,631	62,153	△ 11,522
支出の部合計	298,371	300,283	△ 1,912

② 当年度資金支出合計

予算と比較し、約96億円下回り、約2,381億円となりました。

【主な要因】

- ①② 施設工事の実施・医療機器の購入などの設備投資の計画を見直し、または翌年度以降に繰り延べになったため、施設関係支出が約43億円、設備関係支出が約26億円下回りました。

③ 当年度資金収支差額

予算と比較し、約115億円上回り、約24億円となりました。

③ 当年度資金収支差額	△ 9,099	2,424	△ 11,522
-------------	---------	-------	----------

(2) 事業活動収支計算書

単位：百万円

教育活動収支	事業活動収入の部	科 目	R06年度決算	R05年度決算	差 異
		学生生徒等納付金	13,922	12,533	① 1,389
		手数料	646	649	△ 3
		寄付金	1,334	1,370	△ 36
		経常費等補助金	7,922	8,640	△ 718
		付随事業収入	7,312	7,400	△ 88
		医療収入	186,981	177,961	② 9,020
		雑収入	3,445	2,929	516
		① 教育活動収入 計	221,561	211,483	10,078
	事業活動支出の部	人件費	77,933	74,865	① 3,068
(退職給与引当金繰入額)		(3,440)	(3,140)	(300)	
教育研究経費		52,663	48,945	3,718	
(減価償却額)		(17,551)	(16,412)	(1,139)	
医療経費		89,737	84,382	② 5,354	
管理経費		6,946	6,746	200	
(減価償却額)		(890)	(779)	(111)	
徴収不能額等		105	62	42	
② 教育活動支出 計		227,382	215,001	12,382	
教育活動収支差額			△ 5,821	△ 3,518	△ 2,304
教育活動外収支	収入の活動部	受取利息・配当金	204	150	55
		その他の教育活動外収入	0	0	△ 0
		教育活動外収入 計	204	150	55
	支出の活動部	借入金等利息	55	22	33
		その他の教育活動外支出	0	0	0
		教育活動外支出 計	55	22	33
	教育活動外収支差額			149	127
③ 経常収支差額			△ 5,672	△ 3,390	△ 2,282
特別収支	収入の活動部	資産売却差額	1	0	0
		その他の特別収入	1,117	1,014	103
		特別収入 計	1,118	1,014	104
	支出の活動部	資産処分差額	1,613	63	1,550
		その他の特別支出	32	51	△ 19
		特別支出 計	1,645	114	1,531
	特別収支差額			△ 527	900
予備費			0	0	0
④ 基本金組入前当年度収支差額	△ 6,199	△ 2,491	△ 3,708		
基本金組入額合計			△ 20,117	△ 25,369	5,252
当年度収支差額			△ 26,316	△ 27,859	1,543
前年度繰越収支差額			△ 150,469	△ 122,609	△ 27,859
基 本 金 取 崩 額			0	0	0
翌年度繰越収支差額			△ 176,785	△ 150,469	△ 26,316
(参考)					
事業活動収入 計			222,883	212,647	10,237
事業活動支出 計			229,082	215,137	13,945

① 教育活動収入

前年度と比較し、約 101 億円増加し、約 2,216 億円となりました。

【主な要因】

- ① 新学部の開設や学生定員の増加により、学生生徒等納付金が増加しました。
- ② 高度先進医療を推進したことにより、医療収入が約 90 億円増加しました。

② 教育活動支出

前年度と比較し、約 124 億円増加し、約 2,274 億円となりました。

【主な要因】

- ① 診療体制を更に充実させるため医療スタッフを増員したことなどにより、人件費が約 31 億円増加しました。
- ② 医療収入の増加、高度医療の実施に伴い薬品費や診療材料費が増加したことにより、医療経費が約 54 億円増加しました。

③ 経常収支差額

教育活動支出が教育活動収入以上に増加したことにより、前年度対比で約 23 億円減少し、約△57 億円となりました。

④ 基本金組入前当年度収支差額

経常収支差額が減少したため、前年度対比で約 37 億円減少し、約△62 億円となりました。

(3) 貸借対照表

(資産の部)

単位：百万円

科 目	R06年度決算	R05年度決算	増 減
固 定 資 産	265,280	258,565	6,714
有形固定資産	239,943	234,307	① 5,636
土地	61,156	60,483	673
建物	137,732	124,419	13,313
その他の有形固定資産	41,054	49,405	△8,350
特定資産	14,780	13,998	782
その他の固定資産	10,557	10,261	296
流 動 資 産	99,172	95,396	3,776
現金預金	62,153	59,729	2,424
その他の流動資産	37,019	35,666	1,353
資 産 の 部 合 計 ①	364,452	353,961	10,491

① 資産の部合計

前年度対比で約 105 億円増加し、約 3,645 億円となりました。

【主な要因】

① 浦安・日の出キャンパスや静岡病院など各施設での再編事業の進行により固定資産のうち有形固定資産が約 56 億円増加しました。

(負債の部)

科 目	R06年度決算	R05年度決算	増 減
固 定 負 債	58,655	44,655	13,999
長期借入金	24,111	9,555	① 14,555
学校債	1,910	3,440	△1,530
その他の固定負債	32,634	31,660	974
流 動 負 債	29,869	27,179	2,691
短期借入金	2,445	2,445	0
短期学校債	1,680	550	1,130
その他の流動負債	25,745	24,184	1,561
負 債 の 部 合 計 ②	88,524	71,834	16,690

② 負債の部合計

前年度対比で約 167 億円増加し、約 885 億円となりました。

【主な要因】

① 金融機関からの借り入れにより、固定負債のうち、長期借入金が増加しました。

(純資産の部)

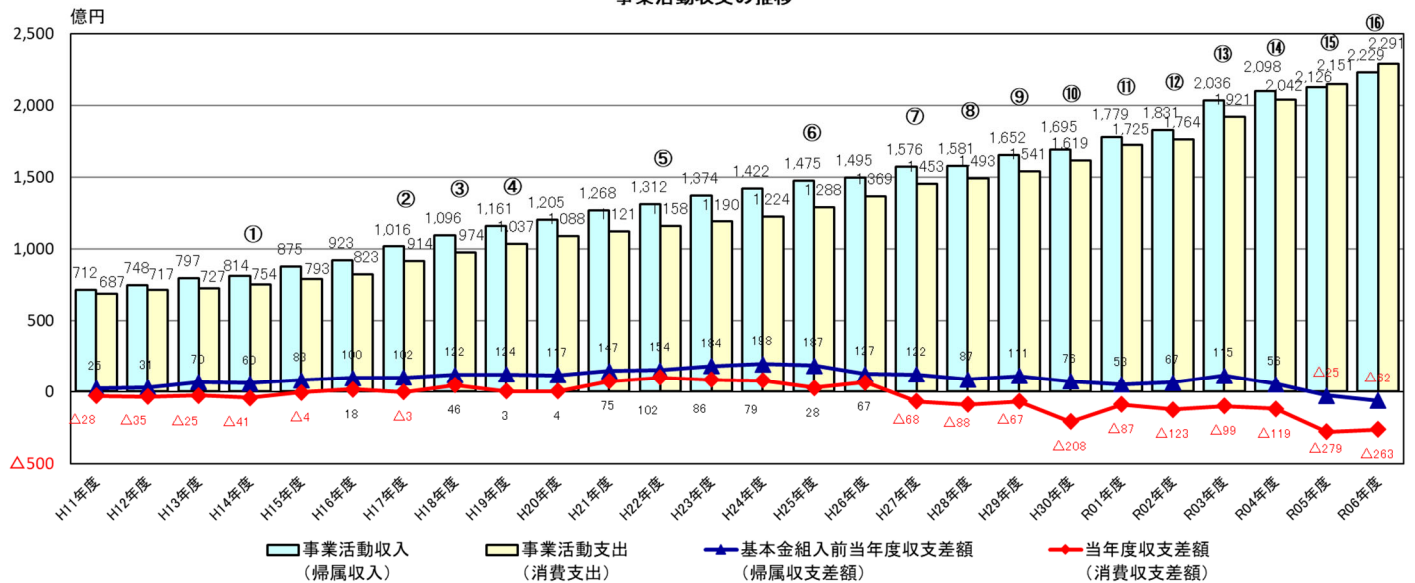
科 目	R06年度決算	R05年度決算	増 減
基本金	452,712	432,596	20,117
第1号基本金	436,338	416,891	19,448
第2号基本金	180	368	△188
第3号基本金	0	0	0
第4号基本金	16,194	15,337	857
繰越収支差額	△176,785	△150,469	△26,316
翌年度繰越収支差額	△176,785	△150,469	△26,316
純資産の部合計 ③	275,928	282,127	△6,199
負債及び純資産の部合計	364,452	353,961	10,491

③ 純資産の部合計

事業活動収支計算書の基本金組入前当年度収支差額が約△62 億円となったことにより、約 2,759 億円となりました。

24. 財務状況の推移

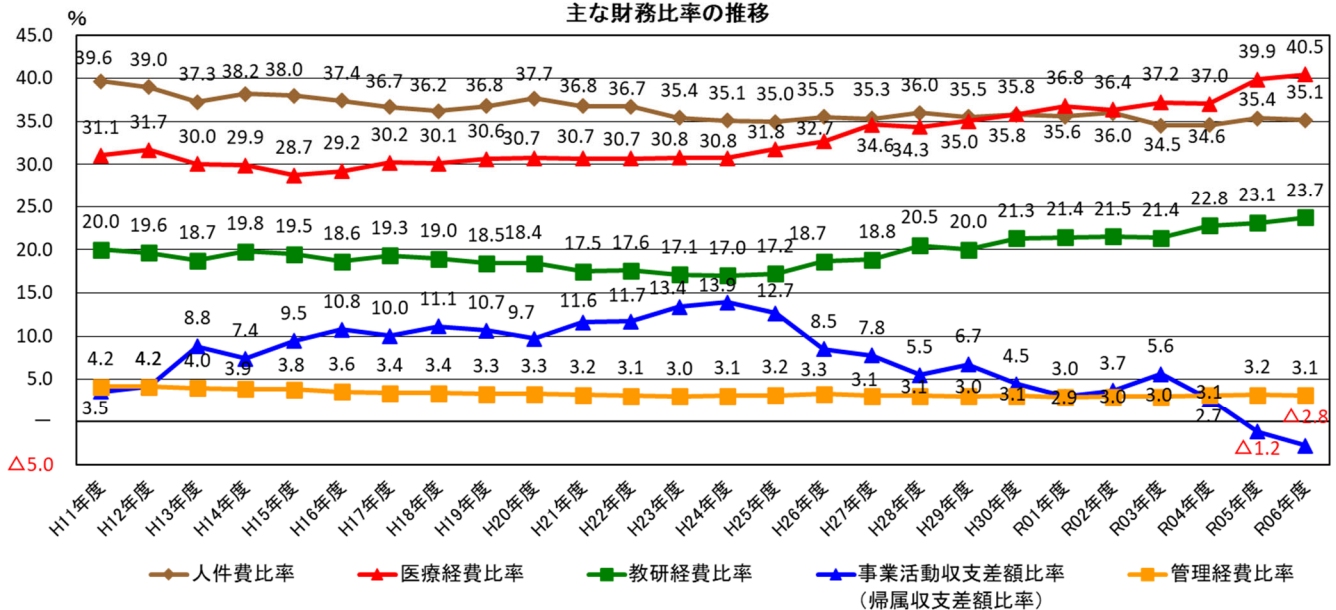
事業活動収支の推移



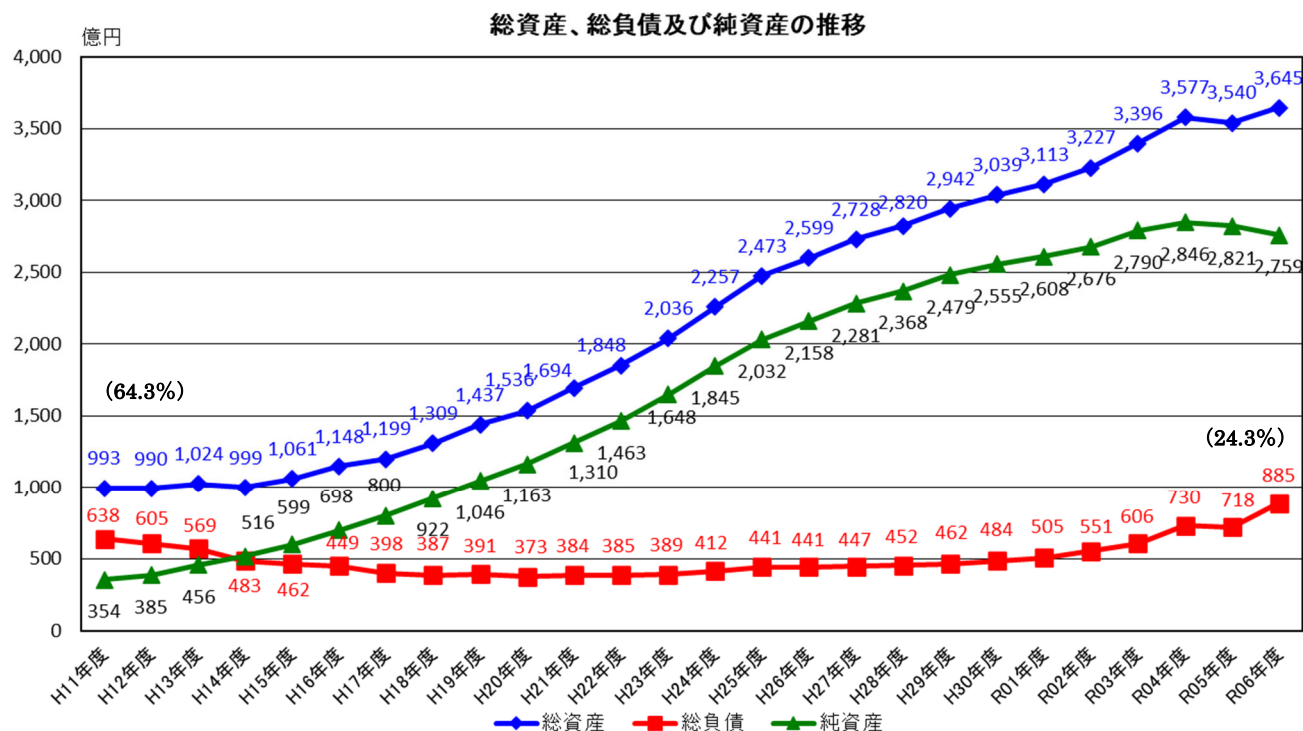
教育・研究・診療の充実を図るため、以下の事業を実施してきました。

①平成 14 年度 順天堂東京江東高齢者医療センター開院 ②平成 17 年度 練馬病院開院 ③平成 18 年度 静岡病院増床、スポーツ健康医科学研究所竣工 ④平成 19 年度 スポーツロジセンター設立 ⑤平成 22 年度 保健看護学部開設 ⑥平成 25 年度 順天堂医院 B 棟 I 期竣工 ⑦平成 27 年度 国際教養学部開設 ⑧平成 28 年度 順天堂医院 B 棟 II 期・C 棟竣工、さくらキャンパス新体操競技場・新女子寮竣工、高齢者医療センター増床 ⑨平成 29 年度 浦安病院 3 号館竣工 ⑩平成 30 年度 新研究棟 (7 号館) 竣工 ⑪令和元年度 保健医療学部開設、練馬病院 3 号館竣工 ⑫令和 2 年度 新研究棟 (7 号館) II 期竣工、さくらキャンパス新講義棟・新女子寮竣工 ⑬令和 3 年度 浦安・日の出キャンパス 1 号館及び体育館竣工 ⑭令和 4 年度 医療科学部開設 ⑮令和 5 年度 健康データサイエンス学部開設、浦安・日の出キャンパス 2 号館竣工、さくらキャンパス第 3 体育館竣工、三島キャンパス新講義棟竣工 ⑯令和 6 年度 薬学部開設、浦安・日の出キャンパス 3・4 号館竣工、静岡病院 H 棟 II 期竣工

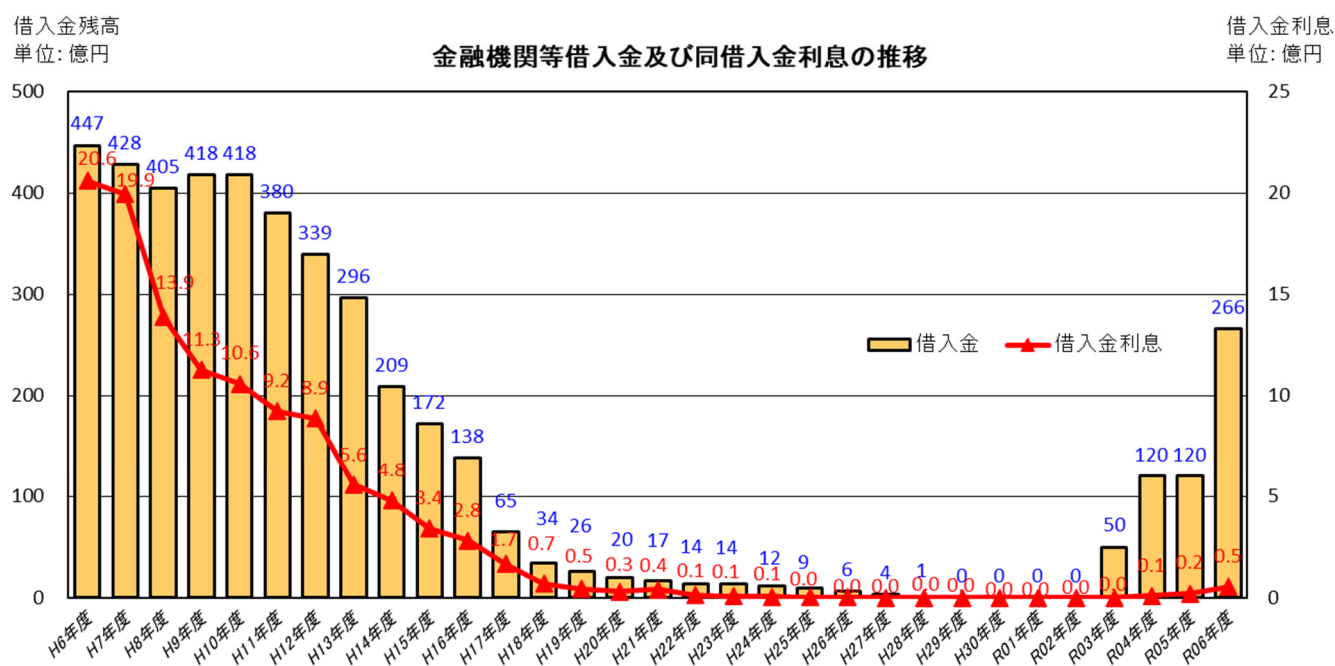
主な財務比率の推移



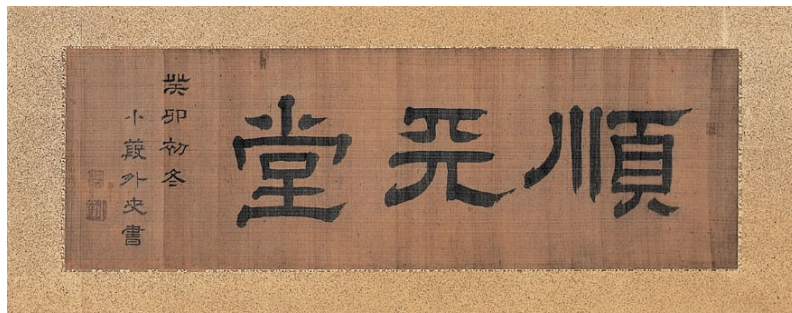
平成 27 年度に学校法人会計基準が改正されたため、事業活動収支差額比率を除く各比率の分母は、26 年度以前が帰属収入 (新基準の事業活動収入)、27 年度以降は経常収入となっています。令和 6 年度は医療経費、教研経費が増加したため、それぞれ比率が上昇し、事業活動収支差額比率は低下しています。



平成5年に竣工した順天堂医院1号館建設資金の大半を借入金で賄ったため、平成13年度までは総負債が純資産を上回っていました。その後は有利子負債の返済を前倒して行いつつ、施設・設備の拡充を自己資金で行いながらも、令和4年度まで堅調な事業活動収支差額（帰属収支差額）を維持してきました。総負債比率（総負債／総資産）は平成11年度には64.3%でしたが、令和6年度は24.3%となりました。



総負債比率改善のため借入金の返済を積極的に進めてきました。令和6年度は越谷病院新病棟建設等の施設設備の充実のため、金融機関から借入れを行なっています。



Juntendo, Tokyo, Established 1838